

## 第Ⅰ部 大学院人文社会系研究科・文学部の概況



# 1. 大学院人文社会系研究科・文学部の沿革と機構

## (1) 沿革

### A 学部の沿革 (年譜)

東京大学	文学部	明治10(1877), 4・東京大学設立	(2学科) 第一 史学, 哲学及政治学科 第二 和漢文学科
		明治12(1879), 9 《明治13(1880), 7・第1回卒業生8名》	「第一 史学, 哲学及政治学科」を『第一哲学政治学及理財学科』とする
		明治14(1881), 9	(3学科) 第一 哲学科 第二 政治学及理財学科 第三 和漢文学科
		明治18(1885), 12	(3学科) 第一 哲学科 第二 和文学科 第三 漢文学科 (政治学, 理財学は法政学部へ編入 法政学部は翌年法科大学となる)
帝国大学	文科大学	明治19(1886), 3・帝国大学令	(4学科) 『第四 博言学科』を増設
		明治20(1887), 9	(7学科) 第一 哲学科 第二 和文学科 第三 漢文学科 第四 史学科 第五 博言学科 第六 英文学科 第七 独逸文学科
		明治22(1889), 6	(8学科) 『国史科』を増設 「和文学科」を『国文学科』とする 「漢文学科」を『漢学科』とする
		明治22(1889), 12	(9学科) 『仏蘭西文学科』を増設
		明治28(1895), 4	史料編纂掛設置
		明治33(1900), 6	「博言学科」を『言語学科』とする
		明治37(1904), 9	(3学科) 哲学科 史学科 文学科
		明治43(1910), 9	(3学科 19専修学科) 第一 哲学科—哲学, 支那哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 美学, 教育学, 社会学 第二 史学科—国史学, 東洋史学, 西洋史学 第三 文学科—国文学, 支那文学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学, 言語学
		大正6(1917), 9	「宗教学」を『宗教学宗教史』とする 「美学」を『美学美術史』とする
		東京帝国大学	文学部
大正8(1919), 9	(19学科) 国文学, 国史学, 支那哲学, 支那文学, 東洋史学, 西洋史学, 哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学宗教史, 社会学, 教育学, 美学美術史, 言語学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学		
《大正10(1921), 4・学年暦変更「9月~7月」を「4月~3月」とする》	史料編纂掛を史料編纂所と改称する		
昭和4(1929), 7	(17学科) 「支那哲学」「支那文学」を『支那哲学支那文学』とする 「印度哲学」「梵文学」を『印度哲学梵文学』とする		
昭和7(1932), 4 《昭和18(1943), 12・学徒出陣》	(3学科 21専修科) 哲学科—哲学, 支那哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 社会学, 教育学, 美学, 美術史学 史学科—国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学 文学科—言語学, 国文学, 支那文学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学 能率研究室 航空研究所より移管		
昭和21(1946), 3 《昭和21(1946), 4・女子学生9名入学》			
昭和23(1948), 4	「支那哲学」を『中国哲学』とする 「支那文学」を『中国文学』とする		
昭和24(1949), 4	(19学科) 国文学, 国史学, 中国哲学, 中国文学, 東洋史学, 西洋史学, 哲学, 印度哲学梵文学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 社会学, 教育学, 美学美術史, 言語学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学, 考古学		
昭和25(1950), 4	「宗教学」を『宗教学宗教学史』とする 「美学美術史」を『美学美術史学』とする 史料編纂所が文学部附属から東京大学附置研究所となる		
昭和26(1951), 4 《昭和26(1951), 4・教養学部より第1回新制学生進学》	(18学科) 「教育学科」を廃止する (昭和24年教育学部設立にともなう措置)		

東京大学 文学部	昭和38(1963), 4	(4類 21専修課程) 第一類(文 化 学)－哲学, 中国哲学, 印度哲学, 印度文学, 倫理学, 宗教学, 宗教史学, 美学, 美術史学 第二類(史 学)－国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学 第三類(語学文学)－言語学, 国語国文学, 中国語中国文学, 英語英米文学, ドイツ語ドイツ文学, フラン ス語フランス文学, 西洋近代語近代文学, 西洋古典学 第四類(心理学, 社会学)－心理学, 社会学
	昭和39(1964), 4	語学ラボラトリー設置
	昭和41(1966), 4	文化交流研究施設設置
	昭和42(1967), 4	第一類「美学」を『美学芸術学』とする
	昭和43(1968), 4	「第一類 美術史学」を『第二類 美術史学』とする
	昭和47(1972), 4	(4類 22専修課程) 『第三類 ロシア語ロシア文学』を増設
	昭和48(1973), 4	北海文化研究常呂実習施設設置
	昭和49(1974), 4	(4類 23専修課程) 『第四類 社会心理学』を増設
	昭和50(1975), 4	(4類 24専修課程) 第三類「国語国文学」を『国語学』『国文学』とする 「外国人留学生相談室」を開設
	昭和54(1979), 4	(4類 25専修課程) 『第三類 イタリア語イタリア文学』を増設 「第四類(心理学, 社会学)」を『第四類(行動学)』とする
	昭和57(1982), 4	(4類 26専修課程) 『第一類 イスラム学』を増設
	昭和59(1984), 9	語学ラボラトリーを視聴覚教育センターと改称する
	昭和60(1985), 4	「外国人留学生相談室」を「国際交流室」に改称する
	昭和63(1988), 4	(4類 27専修課程) 第一類「印度哲学・印度文学」を『第一類 印度哲学』『第三類 印度語印度文学』とする
	平成4(1992), 4	能率研究室を認知科学研究室に改称する
	平成5(1993), 4	文化交流研究施設の拡充 基礎理論部門 朝鮮文化部門
	平成6(1994), 4	(4類 26専修課程) 第一類「中国哲学」, 「印度哲学」を『第一類 中国思想文化学』, 『第一類 インド哲学仏教学』に, 第二類「国史学」を『第二類 日本史学』に, 第三類「印度語印度文学」, 「ロシア語ロシア文学」, 「イタリア語 イタリア文学」を『第三類 インド語インド文学』, 『第三類 スラヴ語スラヴ文学』, 『第三類 南欧語南欧文学』とし, 第三類「国語学」, 「国文学」を『第三類 日本語日本文学』とする 文化交流研究施設の拡充 基礎理論部門 朝鮮文化部門 東洋諸民族言語文化部門
	平成7(1995), 4	第一類(文 化 学)を『思想文化学科』に改称 第二類(史 学)を『歴史文化学科』に改称 第三類(語学文学)を『言語文化学科』に改称 第四類(行 動 学)を『行動文化学科』に改称
	平成19(2007), 4	思想文化学科「宗教学・宗教史学」を『宗教学宗教学』に改称 言語文化学科「西洋近代語近代文学」を『現代文芸論』に改称
	平成28(2016), 4	4学科から1学科に改組 (現在1学科 26専修課程) 人文学科 哲学, 中国思想文化学, インド哲学仏教学, 倫理学, 宗教学宗教学, 美学芸術学, イスラム学, 日本史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 美術史学, 言語学, 日本語日本文学, 中国語中国文学, インド語インド文学, 英語英米文学, ドイツ語ドイツ文学, フランス語フランス文学, スラヴ語スラヴ文学, 南欧語南欧文学, 現代文芸論, 西洋古典学, 心理学, 社会心理学, 社会学

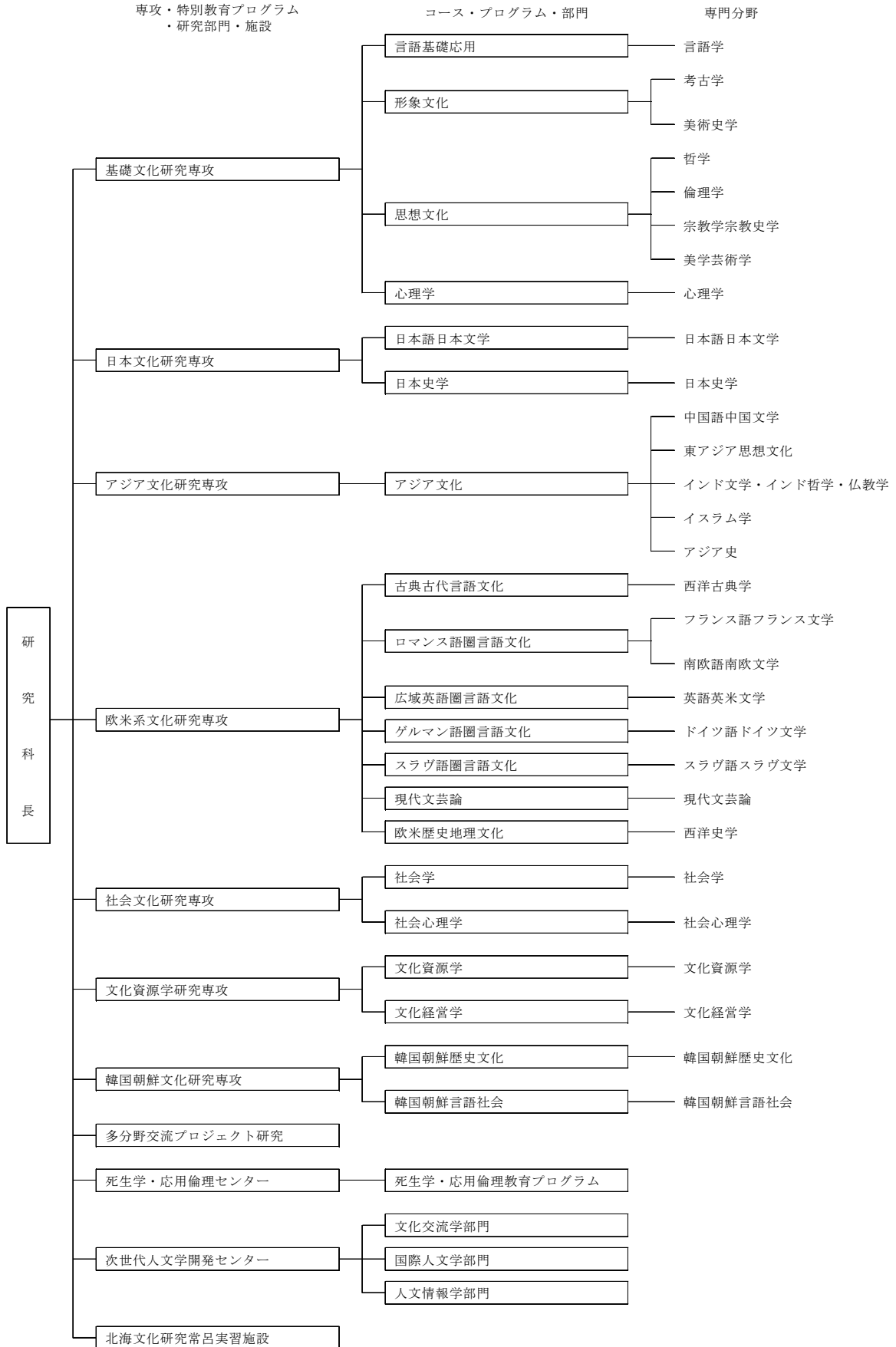
B 人文社会系研究科の沿革 (年譜)

人文科学 研究科	昭和28(1953), 4 東京大学大学院 (新制) 設立	人文科学研究科 (24専門課程) 国語国文学, 中国語中国文学, 西洋古典学, 英語英文学, 独語独文学, 仏語仏文学, 比較文学比較文化, 言語学, 国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 哲学, 中国哲学, 印度哲学, 倫理学, 宗教学宗教学史学, 美学美術学, 心理学, 教育学, 教育心理学, 学校教育学, 教育行政学, 体育学 社会科学研究科 (10専門課程) 公法, 民刑事法, 基礎法学, 政治, 国際関係論, 理論経済学経済学, 応用経済学, 商業学, 農業経済学, 社会学	
	昭和38(1963), 4 研究科の改編にともない, 教育学研究科, 法学政治学研 究科, 経済学研究科, 社会学 研究科設立	人文科学研究科 (19専門課程) 国語国文学, 中国語中国文学, 西洋古典学, 英語英文学, 独語独文学, 仏語仏文学, 比較文学比較文化, 言語学, 国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 哲学, 中国哲学, 印度哲学, 倫理学, 宗教学宗教学史学, 美学美術学, 心理学 社会学研究科 (2専門課程) 国際関係論, 社会学	
	昭和39(1964), 4	人文科学研究科 (20専門課程) 美学美術学専門課程を改組し, 『美学専門課程』, 『美術学専門課程』設置	
	昭和40(1965), 4	社会学研究科 (3専門課程) 『文化人類学専門課程』設置	
	昭和42(1967), 4	人文科学研究科 (20専門課程) 『美学専門課程』を『美学芸術学専門課程』に改称	
	昭和49(1974), 4	人文科学研究科 (21専門課程) 『露語露文学専門課程』設置	
	昭和51(1976), 4	社会学研究科 (4専門課程) 『社会心理学専門課程』設置	
	昭和58(1983), 4	人文科学研究科 (20専門課程) 比較文学比較文化専門課程を総合文化研究科に振替 社会学研究科 (3専門課程) 国際関係論専門課程を総合文化研究科に振替	
	昭和60(1985), 4	人文科学研究科 (20専門課程) 印度哲学専門課程を『印度哲学印度文学専門課程』に改称	
	昭和62(1987), 4	専門課程を専攻に変更	
	昭和63(1988), 4	社会学研究科 (2専攻) 文化人類学専攻を総合文化研究科に振替	
	人文社会系 研究科	平成7(1995), 4 人文科学研究科と社会学研 究科の合流による再編にとも ない, 人文科学研究科の『人文 社会系研究科』への名称変更, 社会学研究科の廃止	人文社会系研究科 (5専攻) 基礎文化研究専攻 日本文化研究専攻 アジア文化研究専攻 欧米系文化研究専攻 社会文化研究専攻 『多分野交流プロジェクト研究』の設置
		平成12(2000), 4	人文社会系研究科 (6専攻) 『文化資源学研究専攻』設置
		平成14(2002), 4	人文社会系研究科 (7専攻) 『韓国朝鮮文化研究専攻』設置
平成16(2004), 4		文化交流研究施設 東洋諸民族言語文化部門を『基礎文化研究専攻・言語応用コース・ 言語動態学専門分野』に改組 社会文化研究専攻・社会情報学コース・社会情報学専門分野を情報学環に振替	
平成17(2005), 4		文化交流研究施設を改組し, 『次世代人文学開発センター』を設置	
平成19(2007), 4		欧米系文化研究専攻内に現代文芸論コース・現代文芸論専門分野を設置	
平成20(2008), 4		韓国朝鮮文化研究専攻を『韓国朝鮮歴史文化コース・韓国朝鮮歴史文化専門分野及び 韓国朝鮮言語社会コース・韓国朝鮮言語社会専門分野』に改組	
平成21(2009), 4		『基礎文化研究専攻・言語基礎コース・言語学専門分野』と『基礎文化研究専攻・言語 応用コース・言語動態学専門分野』を統合し, 『基礎文化研究専攻・言語基礎応用コ ース・言語学専門分野』に改組 アジア文化研究専攻を改組し, 『アジア文化研究専攻・アジア文化コース・中国語中国 文学専門分野, 東アジア思想文化専門分野, インド文学・インド哲学・仏教学専門分野, イスラム学専門分野, アジア史専門分野』を設置	
平成23(2011), 4		『死生学・応用倫理センター』の設置	
平成27(2015), 4		『文化資源学研究専攻・形態資料学コース・形態資料学専門分野』と『文化資源学研究 専攻・文字資料学コース・文書学専門分野』と『文化資源学研究専攻・文字資料学・ 文献学専門分野』を統合し, 『文化資源学研究専攻・文化資源学コース・文化資源学専 門分野』に改組	
		(現在 7専攻) 基礎文化研究専攻 言語基礎応用コース (言語学) 形象文化コース (考古学, 美術学) 思想文化コース (哲学, 倫理学, 宗教学宗教学史学, 美学芸術学) 心理学コース (心理学) 日本文化研究専攻 日本語日本文学コース (日本語日本文学) 日本史学コース (日本史学) アジア文化研究専攻 アジア文化コース (中国語中国文学, 東アジア思想文化, インド文学・インド哲学 ・仏教学, イスラム学, アジア史) 欧米系文化研究専攻 古典古代言語文化コース (西洋古典学) ロマンス語圏言語文化コース (フランス語フランス文学, 南欧語南欧文学) 広域英語圏言語文化コース (英語英文学) ゲルマン語圏言語文化コース (ドイツ語ドイツ文学) スラヴ語圏言語文化コース (スラヴ語スラヴ文学) 現代文芸論コース (現代文芸論) 欧米歴史地理文化コース (西洋史学) 社会文化研究専攻 社会学コース (社会学) 社会心理学コース (社会心理学) 文化資源学研究専攻 文化資源学コース (文化資源学) 文化経営学コース (文化経営学) 韓国朝鮮文化研究専攻 韓国朝鮮歴史文化コース (韓国朝鮮歴史文化) 韓国朝鮮言語社会コース (韓国朝鮮言語社会) 多分野交流プロジェクト研究 次世代人文学開発センター 死生学・応用倫理センター	

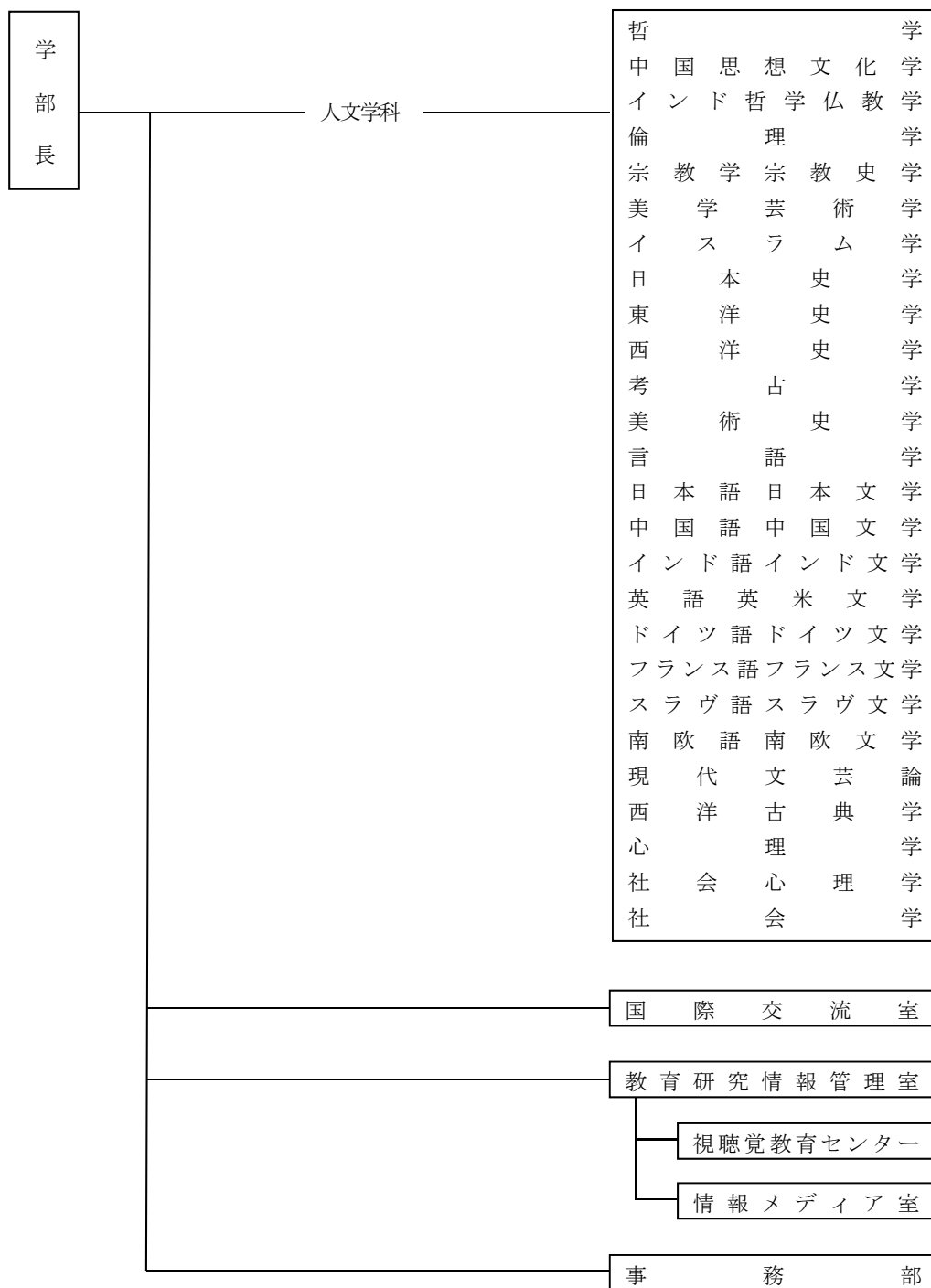
東京大学大学院

人文社会系  
研究科

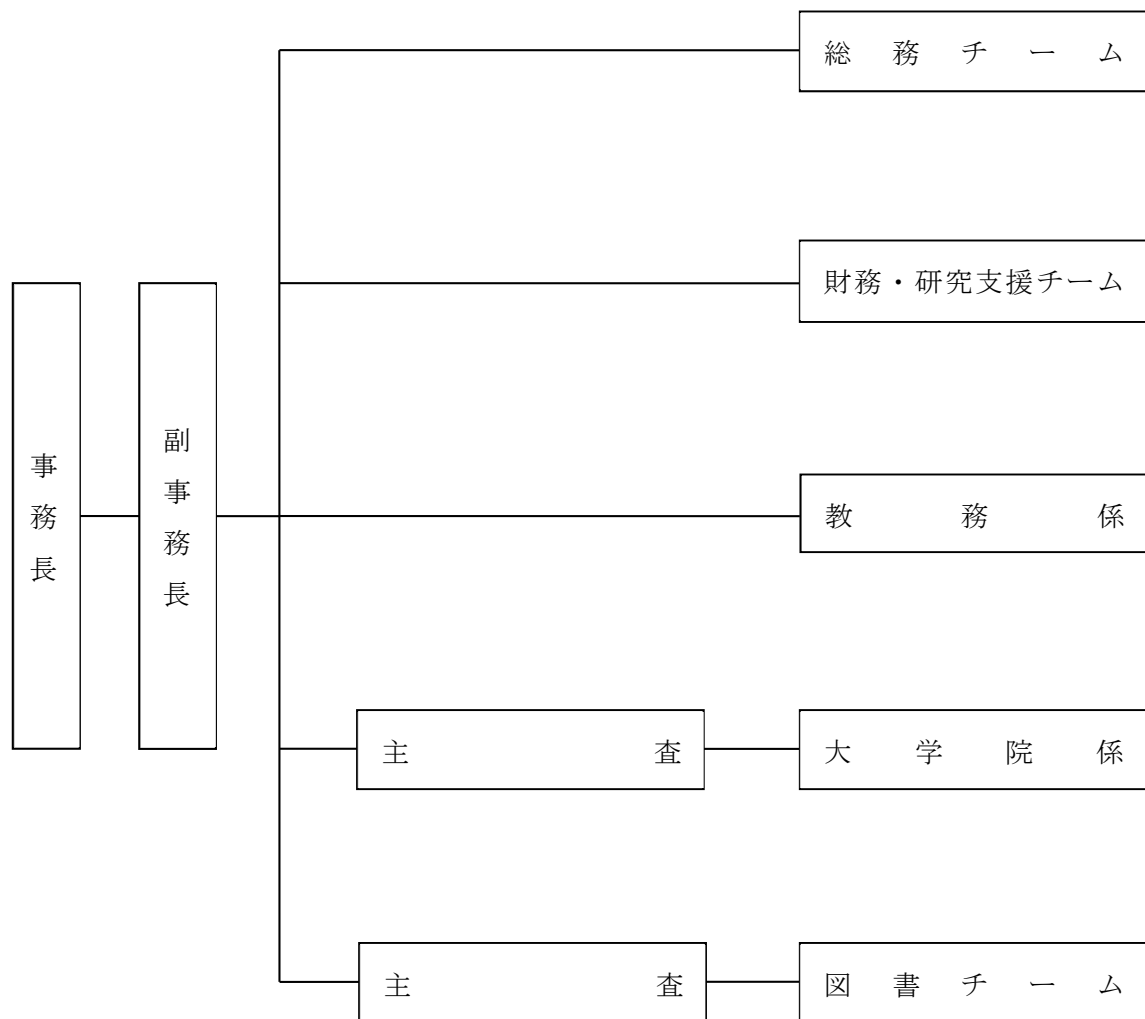
## (2) 大学院人文社会系研究科の機構



(3) 文学部の機構



(4) 事務組織





## (5) 施設・設備

(令和2(2020)年度現在)

法文1号館	建築年	昭和4(1929)・40(1965) 昭和51(1976)	構造 R3-1 構造 R+1
	建物面積	3,964 m <sup>2</sup>	総建物面積 10,723 m <sup>2</sup>
法文2号館	建築年	昭和4(1929)・42(1967) 昭和51(1976) 昭和56(1981)	構造 R4-1 構造 R+1 構造 S+1
	建物面積	12,857 m <sup>2</sup>	総建物面積 16,103 m <sup>2</sup>
文学部3号館	建築年	昭和62(1987)	構造 R8-2
	建物面積	4,295 m <sup>2</sup>	総建物面積 4,295 m <sup>2</sup>
アネックス	建築年	平成9(1997)	構造 S2
	建物面積	580 m <sup>2</sup>	総建物面積 580 m <sup>2</sup>
総合研究棟	建築年	平成7(1995)	構造 R7
	建物面積	657 m <sup>2</sup>	総建物面積 3,942 m <sup>2</sup>
赤門総合研究棟	建築年	昭和40(1965)	構造 R8-1
	建物面積	2,611 m <sup>2</sup>	総建物面積 12,912 m <sup>2</sup>
国際学術総合研究棟	建築年	平成29(2017)	構造 R14-1
	建物面積	379 m <sup>2</sup>	総建物面積 8,806 m <sup>2</sup>

### 北海文化研究常呂実習施設

土地面積	所有	1,036 m <sup>2</sup>		
	借用	7,911 m <sup>2</sup>		
建物	所有	車庫	建築年 昭和41(1966)	構造 B1 総建物面積 38 m <sup>2</sup>
		資料保存センター	建築年 昭和43(1968)	構造 W2 総建物面積 175 m <sup>2</sup>
		新学生宿舎	建築年 平成15(2003)	構造 R2 総建物面積 338 m <sup>2</sup>
	借用	資料館	建築年 昭和42(1967)	構造 R3 総建物面積 343 m <sup>2</sup>
		研究棟	建築年 平成10(1998) (ところ埋蔵文化財センター)	構造 R1 総建物面積 868 m <sup>2</sup>

## 2. 教育とその成果

### (1) 入学と進学

#### A 学部への進学・学士入学等

平成30(2018)年文学部学生数

平成30(2018)年4月1日現在

	2013		2014		2015		2016				2017				2018				計
	進学	進学	進学	転学	進学	学士	再入	転学	進学	学士	再入	転学	進学	学士	再入	転学			
哲学	2		1		9 (1)		1		18 (2)	1	1		17 (3)			1		51 (6)	
中思文					2				1				2					5	
印哲			1		1			1		1			2	3 (3)		1		10 (3)	
倫理			1		2 (1)				9 (1)				8		1			21 (2)	
宗教		2	2 (1)		4	2			12 (5)	1 (1)			12 (2)					35 (9)	
美学			3 (1)		7 (2)				15 (8)				24 (9)					49 (20)	
イ学			1						1 (1)	2			4					8 (1)	
計	2	2	9 (2)		25 (4)	2	1	1	56 (17)	5 (1)	1		69 (14)	3 (3)	2	1		179 (41)	
日本史	1		3	1	8 (2)				25 (7)				24 (1)		1	1 (1)		64 (11)	
東洋史					4				11 (2)				19 (5)					34 (7)	
西洋史			1		8 (1)				19 (3)				23 (3)					51 (7)	
考古	1 (1)				1				7 (2)				6					15 (3)	
美術史	1 (1)				1				12 (4)	1 (1)			13 (7)			1		29 (13)	
計	3 (2)		4	1	22 (3)				74 (18)	1 (1)			85 (16)		1	2 (1)		193 (41)	
言語		1			3	1 (1)			16 (5)				20 (3)	1				42 (9)	
国語	1	1	1		2				14 (4)		1 (1)		4					24 (5)	
国文					5				21 (7)				19 (7)					45 (14)	
中文									1	1			1 (1)					3 (1)	
印文										1								1	
英文			2		9 (1)				20 (5)	2 (2)			24 (6)					57 (14)	
独文					1				1				2					4	
仏文	1				5 (2)				4 (1)				13 (3)	1		1		25 (6)	
スラヴ					2 (1)	1				1					2			6 (1)	
南欧文						1 (1)				2 (2)			1	1				5 (3)	
現文			1		7 (1)				8	1 (1)			8 (3)					25 (5)	
西古典									2				1	1				4	
計	2	2	4		34 (5)	3 (2)			87 (22)	8 (5)	1 (1)		93 (23)	6		1		241 (58)	
心理	1		2		2 (1)				23 (5)		1		23 (6)					52 (12)	
社心					8 (3)				25 (12)		1		20 (10)					54 (25)	
社会			1		10 (5)	1			50 (21)				48 (20)					110 (46)	
計	1		3		20 (9)	1			98 (38)		2		91 (36)					216 (83)	
合計	8 (2)	4	20 (2)	1	101 (21)	6 (2)	1	1	315 (95)	14 (7)	4 (1)		338 (89)	9 (3)	3	4 (1)		829 (223)	
	8 (2)	4	21 (2)		109 (23)				333 (103)				354 (93)						

( )は、女子で内数。

令和元(2019)年文学部学生数

平成31年(2019)年4月1日現在

	2013		2014		2015		2016		2017		2018				2019				計
	進学	進学	進学	転学	進学	学士	進学	学士	進学	学士	再入	転学	進学	学士	再入	転学			
哲学					1		12				17 (3)		1		13 (1)	1		2	47 (4)
中思文											2			1 (1)					3 (1)
印哲											2	2 (2)		1	1	2		2	10 (2)
倫理					1		4				8		1		8 (2)	1			23 (2)
宗教		1			2	1	4 (2)				12 (2)				14 (7)			2	36 (11)
美学					1		6 (4)				24 (9)				27 (5)				58 (18)
イ学											4								4
計		1			5	1	26 (6)				69 (14)	2 (2)	2	1	64 (16)	4		6	181 (38)
日本史					1		6				24 (1)			1 (1)	25 (6)				57 (8)
東洋史					3		5 (2)				16 (4)				15 (5)				39 (11)
西洋史			1		2		7 (1)				23 (3)				15 (6)			1 (1)	49 (11)
考古					1						6				7 (1)				14 (1)
美術史	1 (1)						4 (1)	1 (1)			13 (7)			1	15 (7)		1		36 (17)
計	1 (1)		1		7		22 (4)	1 (1)			82 (15)			2 (1)	77 (25)		1	1 (1)	195 (48)
言語		1			1	1 (1)	5				20 (3)	1			16 (4)	2		1	48 (8)
国語		1			2		3				4				8 (3)				18 (3)
国文					3		6 (1)				19 (7)				17 (9)			1 (1)	46 (18)
中文								1			1 (1)								2 (1)
印文								1										1	2
英文			1		2		5	2 (2)			24 (6)				32 (3)			1	67 (11)
独文					1						2				1				4
仏文	1				3 (2)		1				13 (3)	1		1	4				24 (5)
スラヴ					1		1	1			2			1 (1)					6 (1)
南欧文						1 (1)		1 (1)			1	1							4 (2)
現文			1		1		4				8 (3)				7 (2)				21 (5)
西古典							1				1	1		4 (1)	3 (1)				10 (2)
計	1	2	2		14 (2)	2 (2)	26 (1)	6 (3)			93 (23)	6		1	90 (23)	5 (1)		4 (1)	252 (56)
心理	1				1 (1)		5 (1)				23 (6)				23 (9)				53 (17)
社心					2 (1)		4 (2)				20 (10)				21 (7)				47 (20)
社会			1		1		16 (7)				48 (20)				52 (27)		1	1	120 (54)
計	1		1		4 (2)		25 (10)				91 (36)				96 (43)		1	1	220 (91)
合計	3 (1)	3	4		30 (4)	3 (2)	99 (21)	7 (4)			335 (88)	8 (2)	2	4 (1)	327 (107)	9 (1)	2	12 (2)	848 (233)
	3 (1)	3	4		33		106				349 (91)				350 (110)				

( )は、女子で内数。

B 学士入学試験の実施状況

凡例
合格者数
出願者数

専修課程	入学年度				
	平成28(2016)年	平成29(2017)年	平成30(2018)年	令和元(2019)年	令和2(2020)年
哲学	0 9	1 6	0 11	1 8	1 7
中思文	0 1	0 5	0 0	0 0	1 1
印哲	1 4	2 7	3 4	2 6	1 4
倫理	0 1	0 1	0 3	1 3	0 1
宗教	2 5	1 3	0 3	0 3	0 3
美学	0 7	0 9	0 4	0 3	0 5
イ学	0 0	2 2	0 3	0 1	0 0
日本史	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
東洋史	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
西洋史	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
考古	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
美術史	0 1	1 4	0 1	0 2	1 4
言語	1 3	0 2	1 5	2 6	0 5
国語	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
国文	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
中文	0 1	1 3	0 0	0 1	0 4
印文	0 1	1 1	0 1	0 0	1 1
英文	0 2	2 2	0 2	0 1	0 2
独文	0 1	0 2	0 2	0 0	1 2
仏文	0 2	0 2	1 3	0 1	3 4
スラヴ	1 2	1 3	2 4	0 1	0 2
南欧文	1 5	2 2	1 1	0 3	0 2
現文	0 1	1 2	0 2	0 2	0 2
西古典	1 1	0 2	1 3	3 4	3 4
心理	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
社心	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
社会	1 10	0 8	募集なし	募集なし	募集なし
合計	8 57	15 66	9 52	9 45	12 53

C 大学院への入・進学

平成30(2018)年度 大学院学生数

(注) ( )内は女性、○数字は外国人を示し、内数

専攻	コース	専門分野	修 士 課 程				博 士 課 程				
			2018年	2017年	16年以前	計	2018年	2017年	2016年	15年以前	計
基礎文化研究	言語基礎応用	言語学	5 (2) ①	6 (4) ①	1	12 (6) ②	3 (1)	3	2	6 (3) ②	14 (4) ②
	形象文化	考古学	6 (2) ①	3 (2)	2	11 (4) ①	3 (2) ①	2	3	2 (1)	10 (3) ①
		美術史学	4 (4)	5 (4)	1 (1)	10 (9)	3 (2)	3 (2) ②	2 (2)	4 (2)	12 (8) ②
	思想文化	哲学	8	7	3 (1)	18 (1)	1	3 (1)	3	13 (1)	20 (2)
		倫理学	3 (1)		1	4 (1)	1	1 (1)	1	5 (2)	8 (3)
		宗教学宗教史学	6 (3) ①	7 (3) ①	4 (4)	17 (10) ②	2 (2) ①	4 (1)	5 (2) ①	12 (3) ①	23 (8) ③
		美学芸術学	2	5 (3) ②	2 (1) ①	9 (4) ③	4 (1) ①	2 (2) ②	2 (1) ①	4 (1)	12 (5) ④
心理学	2 (1)	8 (5) ①		10 (6) ①	1			2 (2) ①	3 (2) ①		
日本文化研究	日本語日本文学	11 (6) ①	10 (6) ③	5 (3) ②	26 (15) ⑥	4 (2) ①	2 (1) ①	8 (3) ②	7 (3) ③	21 (9) ⑦	
	日本史学	9 (3) ①	8 (1)	4 (1)	21 (5) ①	9 (3) ②	4 (2) ②	7 (1) ①	8 (4) ①	28 (10) ⑥	
アジア文化研究	アジア文化	中国語中国文学	1 ①	4 (1) ①		5 (1) ②	3 (2) ②	2 (1) ①	1 (1) ①	6 (5) ②	12 (9) ⑥
		東アジア思想文化	2 ②	1	2	5 ②	2 (2) ②	1 ①	3 (2) ②	5 (2) ③	11 (6) ⑧
		インド文学・インド哲学・仏教学	2 (1)	6 (1)	3	11 (2)	1 (1) ①	1	6 (2) ④	5 (2)	13 (5) ⑤
		イスラム学		4		4		1	2	1 (1)	4 (1)
		アジア史	3 (1)		3 (1) ①	6 (2) ①	1	6 (2) ②	3	8 (5) ②	18 (7) ④
欧米系文化研究	古典古代言語文化	西洋古典学	1			1	4	2 (1)	1 (1)	5 (1)	12 (3)
	ロマンス語圏言語文化	フランス語フランス文学	4 (1)	5 (2) ①	3 (2)	12 (5) ①	4	2 (1)	3 (3)	6 (2)	15 (6)
		南欧語南欧文学		1	1	2	2 (1)	1 (1)		2 (1)	5 (3)
	広域英語圏言語文化	英語英米文学	6 (3)	3	4 (2)	13 (5)	1	5 (2)	5 (2)	11 (4)	22 (8)
	ケルマン語圏言語文化	ドイツ語ドイツ文学	5	5 (2)		10 (2)	3 (1)	1 (1)	2	11 (5)	17 (7)
	スラヴ語圏言語文化	スラヴ語スラヴ文学	1	2 (1)	1	4 (1)		2 (1)		3 (2)	5 (3)
	現代文芸論	現代文芸論	4 (2) ①	7 (2) ①	4 (2)	15 (6) ②	4 (3) ②	2 (1)	5 (2)	11 (7) ④	22 (13) ⑥
欧米歴史地理文化	西洋史学	5 (1) ②	9	2	16 (1) ②	5 (2)	4	3	15 (2)	27 (4)	
社会文化研究	社会学	社会学	5 (1) ②	8 (3) ③	2 (1)	15 (5) ⑤	6 (1) ①	6 (2) ①	3	9 (2) ①	24 (5) ③
	社会心理学	社会心理学	7 (2)	3		10 (2)	4	1	3 (1)	3 (1) ②	11 (2) ②
文化資源学研究	文化資源学	文化資源学	4 (4)	5 (3)	2 (1)	11 (8)		1 (1)	3 (2)	1 (1)	5 (4)
	文化経営学	文化経営学	5 (2)	4 (1)	4 (2)	13 (5)	2 (2) ①	2 (2)		5 (4) ②	9 (8) ③
	形態資料学	形態資料学								1 (1)	1 (1)
	文字資料学	文書学								1 (1)	1 (1)
韓国朝鮮文化研究	韓国朝鮮歴史文化	韓国朝鮮歴史文化	1 (1)			1 (1)		1 (1) ①		5 (2) ④	6 (3) ⑤
	韓国朝鮮言語社会	韓国朝鮮言語社会	4 (2) ③	3 (2) ①	1 (1) ①	8 (5) ⑤	3 (1) ②	2 (2) ①	1 (1) ①	8 (8) ⑥	14 (12) ⑩
合 計			116 (43) ⑬	129 (46) ⑮	55 (23) ⑤	300 (112) ⑳	76 (29) ⑰	67 (29) ⑱	77 (26) ⑬	185 (81) ⑭	405 (165) ⑳

令和元(2019)年度 大学院学生数

(注)( )内は女性、○数字は外国人を示し、内数

専攻	コース	専門分野	修 士 課 程				博 士 課 程				
			2019年	2018年	17年以前	計	2019年	2018年	2017年	16年以前	計
基礎文化研究	言語基礎応用	言語学	9 (4) ①	5 (2) ①	2 (1)	16 (7) ②	3 (1)	2 (1)	3	4 (2) ②	12 (4) ②
	形象文化	考古学	3 (1)	5 (1) ①	2 (1)	10 (3) ①		3 (2) ①	2	3	8 (2) ①
		美術史学	1	4 (4)	1	6 (4)	3 (3)	2 (1)	3 (2) ②	5 (3)	13 (9) ②
	思想文化	哲学	8	7	4 (1)	19 (1)	3	1	3 (1)	15 (1)	22 (2)
		倫理学		3 (1)	1	4 (1)		1	1 (1)	4 (1)	6 (2)
		宗教学宗教史学	6 ①	6 (3) ①	7 (5) ①	19 (8) ③	3 (1)	1 (1) ①	4 (1)	9 (4) ①	17 (7) ②
		美学芸術学	4 (1) ①	1	1	6 (1) ①	6 (3) ③	3 (1) ①	2 (2) ②	2	13 (6) ⑥
心理学	心理学	6 (2)	2 (1)		8 (3)	6 (4) ①	1		2 (2) ①	9 (6) ②	
日本文化研究	日本語日本文学	日本語日本文学	17 (5) ①	11 (6) ①	3 (2)	31 (13) ②	5 (4) ③	3 (1) ①	2 (1) ①	9 (4) ④	19 (10) ⑨
	日本史学	日本史学	11 (6) ③	8 (2) ①	2	21 (8) ④	7	8 (3) ②	4 (2) ②	13 (3) ②	32 (8) ⑥
アジア文化研究	アジア文化	中国語中国文学	3 (1) ①	1 ①		4 (1) ②	4 (1) ①	3 (2) ②	2 (1) ①	4 (3) ①	13 (7) ⑤
		東アジア思想文化	2 ①	2 ②	1	5 ③	3 (1) ①	2 (2) ②	1 ①	6 (3) ③	12 (6) ⑦
		インド文学・インド哲学・仏教学	1	2 (1)	5	8 (1)	3 (1)	1 (1) ①	1	10 (4) ③	15 (6) ④
		イスラム学	1 (1)		1	2 (1)	4		1	2	7
		アジア史	1	3 (1)	1	5 (1)		1	5 (1) ②	9 (3) ②	15 (4) ④
欧米系文化研究	古典古代言語文化	西洋古典学		1		1	1	4	2 (1)	5 (2)	12 (3)
	ロマンス語圏言語文化	フランス語フランス文学	7 (3)	4 (1)	2 (1)	13 (5)	2 (2)	4	2 (1)	6 (3)	14 (6)
		南欧語南欧文学					1	2 (1)	1 (1)	1	5 (2)
	広域英語圏言語文化	英語英米文学	4 (2)	6 (3)	1	11 (5)	5 (2)	1	5 (2)	13 (5)	24 (9)
	ゲルマン語圏言語文化	ドイツ語ドイツ文学	3 (1)	5		8 (1)	3 (2)	2 (1)	1 (1)	10 (3)	16 (7)
	スラヴ語圏言語文化	スラヴ語スラヴ文学	1	1	1 (1)	3 (1)	1 (1)		2 (1)	2 (2)	5 (4)
	現代文芸論	現代文芸論	5 (3) ③	4 (2) ①	6 (1)	15 (6) ④	3 (2)	4 (3) ②	2 (1)	12 (6) ②	21 (12) ④
欧米歴史地理文化	西洋史学	4	5 (1) ②	6	15 (1) ②	2	4 (2)	4	15 (2)	25 (4)	
社会文化研究	社会学	社会学	11 (4) ③	5 (1) ②	1 (1)	17 (6) ⑤	6 (2) ①	6 (1) ①	6 (2) ①	8 (1)	26 (6) ③
	社会心理学	社会心理学	1	7 (2)		8 (2)		4	1	3 (2) ①	8 (2) ①
文化資源学	文化資源学	文化資源学	2 (1)	4 (4)	1	7 (5)	1 (1)		1 (1)	3 (2)	5 (4)
	文化経営学	文化経営学	5 (4) ①	5 (2)	1	11 (6) ①		1 (1) ①	2 (2)	3 (2) ①	6 (5) ②
韓国朝鮮文化研究	韓国朝鮮歴史文化	韓国朝鮮歴史文化		1 (1)		1 (1)			1 (1) ①	4 (1) ③	5 (2) ④
	韓国朝鮮言語社会	韓国朝鮮言語社会	3 (3)	4 (2) ③	1 (1) ①	8 (6) ④	1 (1)	3 (1) ②	2 (2) ①	8 (8) ⑥	14 (12) ⑨
合 計			119 (42) ⑬	112 (41) ⑬	51 (15) ②	282 (98) ④	76 (32) ⑩	67 (25) ⑩	66 (28) ⑭	190 (72) ⑫	399 (157) ⑭

(2) 教育の成果

A 大学院の学位取得状況

学位取得者数

	平成27 (2015) 年度		平成28 (2016) 年度		平成29 (2017) 年度		平成30 (2018) 年度		令和元 (2019) 年度	
	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士
人文社会系研究科	127	50(3)	112	57(8)	103	59(3)	126	50(5)	100	45(3)

( )内は論文博士の内数

B 学部卒業生の進路

平成30(2018)年3月卒業生進路状況

専修課程	卒業生総数	進学者		就職者				未就職者		不明者			
		大学院	専修・外国	企業	官庁	教育	その他	就職準備中	その他				
文学部全体	279 (92)	65 (19)	1	66 (19)	158 (54)	11 (4)	12 (4)	2 (1)	183 (63)	5	10 (3)	15 (3)	15 (7)

各学科内訳  
(思想文化学科)

専修課程	卒業生総数	進学者		就職者				未就職者		不明者		
		大学院	専修・外国	企業	官庁	教育	その他	就職準備中	その他			
哲学	15 (2)	6 (1)	6 (1)	4 (1)			1	5 (1)		3	3	1
中国思想文化学	1			1				1				
インド哲学仏教学	4 (2)	2 (1)	2 (1)							2 (1)	2 (1)	
倫理学	5 (1)	2 (1)	2 (1)	3				3				
宗教学宗教学	10 (3)	2	2	6 (2)		1		7 (2)				1 (1)
美学芸術学	11 (3)	1	1	8 (2)	1 (1)			9 (3)				1
イスラム学	3 (2)			1 (1)				1 (1)	1	1 (1)	2 (1)	
(思想文化学科 計)	49 (13)	13 (3)	13 (3)	23 (6)	1 (1)	1	1	26 (7)	1	6 (2)	7 (2)	3 (1)

(歴史文化学科)

専修課程	卒業生総数	進学者		就職者				未就職者		不明者		
		大学院	専修・外国	企業	官庁	教育	その他	就職準備中	その他			
日本史学	18 (2)	5 (2)	5 (2)	7	1	2		10		1	1	2
東洋史学	12 (2)	5 (2)	5 (2)	5		1		6				1
西洋史学	23 (4)	8 (1)	8 (1)	9 (2)		4 (1)		13 (3)	2		2	
考古学	4	1	1	3				3				
美術史学	14 (11)	3 (3)	3 (3)	10 (7)				10 (7)				1 (1)
(歴史文化学科 計)	71 (19)	22 (8)	22 (8)	34 (9)	1	7 (1)		42 (10)	3		3	4 (1)

(言語文化学科)

専修課程	卒業生総数	進学者		就職者				未就職者		不明者		
		大学院	専修・外国	企業	官庁	教育	その他	就職準備中	その他			
言語学	9 (4)	2	2	5 (2)		1 (1)		6 (3)				1 (1)
日本語日本文学(国語学)	4 (2)	1	1	2 (1)		1 (1)		3 (2)				
日本語日本文学(国文学)	19 (7)	4 (2)	4 (2)	13 (5)	1			14 (5)		1	1	
中国語中国文学												
インド語インド文学												
英語英米文学	17 (6)	3 (1)	3 (1)	12 (3)				12 (3)				2 (2)
ドイツ語ドイツ文学	2 (1)	1	1	1 (1)				1 (1)				
フランス語フランス文学	4 (1)	2	2	2 (1)				2 (1)				
スラブ語スラブ文学	3 (1)	2	2	1 (1)				1 (1)				
南欧語南欧文学												
現代文芸論	8 (3)	1	1	4 (2)	1		1 (1)	6 (3)		1	1	
西洋古典学	3	3	3									
(言語文化学科 計)	69 (25)	19 (3)	19 (3)	40 (16)	2	2 (2)	1 (1)	45 (19)		2	2	3 (3)

(行動文化学科)

専修課程	卒業生総数	進学者		就職者				未就職者		不明者		
		大学院	専修・外国	企業	官庁	教育	その他	就職準備中	その他			
心理学	19 (7)	4 (2)	4 (2)	13 (4)	1 (1)			14 (5)		1	1	
社会心理学	18 (8)	3 (1)	3 (1)	10 (4)	1	1 (1)		12 (5)		1 (1)	1 (1)	2 (1)
社会学	53 (20)	4 (2)	5 (2)	38 (15)	5 (2)	1		44 (17)	1		1	3 (1)
(行動文化学科 計)	90 (35)	11 (5)	12 (5)	61 (23)	7 (3)	2 (1)		70 (27)	1	2 (1)	3 (1)	5 (2)

( )内は、女子で内数

平成31(2019)年3月卒業生進路状況

専修課程	卒業生総数	進学者		就職者				未就職者		不明者		
		大学院	専修・外国	企業	官庁	教育	その他	就職準備中	その他			
文学部全体	317 (97)	75 (21)	75 (21)	179 (56)	16 (7)	12 (3)	2	209 (66)	7 (2)	18 (6)	25 (8)	8 (2)

各学科内訳  
(思想文化学科)

専修課程	卒業生総数	進学者		就職者				未就職者		不明者		
		大学院	専修・外国	企業	官庁	教育	その他	就職準備中	その他			
哲学	18 (3)	6	6	8 (2)	1			9 (2)		1 (1)	1 (1)	2
中国思想文化学	3	1	1	1		1		2				
インド哲学仏教学	3	2	2	1				1				
倫理学	7 (2)	2 (1)	2 (1)	3 (1)		1	1	5 (1)				
宗教学宗教学	14 (5)	4	4	4 (2)	1 (1)		1	6 (3)	1	3 (2)	4 (2)	
美学芸術学	18 (7)	2 (2)	2 (2)	11 (4)		2		13 (4)		3 (1)	3 (1)	
イスラム学	3 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (1)				2		2		
(思想文化学科 計)	66 (18)	18 (4)	18 (4)	28 (9)	2 (1)	4	2	36 (10)	1	9 (4)	10 (4)	2

(歴史文化学科)

専修課程	卒業生総数	進学者		就職者				未就職者		不明者		
		大学院	専修・外国	企業	官庁	教育	その他	就職準備中	その他			
日本史学	29 (9)	9 (5)	9 (5)	13 (2)	4 (1)	1 (1)		18 (4)	1		2	
東洋史学	6			6				6				
西洋史学	18 (3)	5	5	9 (2)	2			11 (2)	1 (1)	1	2 (1)	
考古学	7 (2)	1	1	4 (1)	1 (1)	1		6 (2)				
美術史学	8 (3)	2	2	6 (3)				6 (3)				
(歴史文化学科 計)	68 (17)	17 (5)	17 (5)	38 (8)	7 (2)	2 (1)		47 (11)	2 (1)	2	4 (1)	

(言語文化学科)

専修課程	卒業生総数	進学者		就職者				未就職者		不明者		
		大学院	専修・外国	企業	官庁	教育	その他	就職準備中	その他			
言語学	13 (5)	4 (1)	4 (1)	6 (2)		2 (1)		8 (3)		1 (1)	1 (1)	
日本語日本文学(国語学)	14 (5)	7 (1)	7 (1)	6 (4)				6 (4)				
日本語日本文学(国文学)	17 (6)	6 (2)	6 (2)	9 (3)	1 (1)			10 (4)		1	1	
中国語中国文学	1		1									
インド語インド文学												
英語英米文学	23 (6)	1	1	18 (4)	1 (1)			19 (5)				3 (1)
ドイツ語ドイツ文学	1								1		1	
フランス語フランス文学	5 (1)	1	1	3 (1)				3 (1)		1	1	
スラブ語スラブ文学	2 (1)	1	1	1 (1)				1 (1)				
南欧語南欧文学	1 (1)								1 (1)		1 (1)	
現代文芸論	11 (2)	5 (2)	5 (2)	4	1			5		1	1	
西洋古典学	1			1				1				
(言語文化学科 計)	89 (27)	26 (6)	26 (6)	48 (15)	3 (2)	2 (1)		53 (18)	3 (1)	4 (1)	7 (2)	3 (1)

(行動文化学科)

専修課程	卒業生総数	進学者		就職者				未就職者		不明者		
		大学院	専修・外国	企業	官庁	教育	その他	就職準備中	その他			
心理学	22 (4)	5 (2)	5 (2)	13 (2)		3		16 (2)	1		1	
社会心理学	28 (12)	2	2	21 (9)	2 (1)			23 (10)		1 (1)	1 (1)	2 (1)
社会学	44 (19)	7 (4)	7 (4)	31 (13)	2 (1)	1 (1)		34 (15)		2	2	1
(行動文化学科 計)	94 (35)	14 (6)	14 (6)	65 (24)	4 (2)	4 (1)		73 (27)	1	3 (1)	4 (1)	3 (1)

( )内は、女子で内数

## C 学部卒業生の就職状況

平成30(2018)年3月卒業生

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	エネルギー	教育	官公庁	その他
専修課程																
文学部全体	6 (3)	5	7 (3)	5	25 (6)	8 (3)	31 (14)	9 (2)	7 (4)	5 (1)	17 (8)	31 (10)	2	12 (4)	11 (4)	2 (1)

(思想文化学科)

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	エネルギー	教育	官公庁	その他
専修課程																
哲学					3 (1)			1								1
中国思想文化学							1									
インド哲学仏教学																
倫理学					2							1				
宗教学宗教史学					1			1	1 (1)			3 (1)		1		
美学芸術学											1	7 (2)			1 (1)	1 (1)
イスラム学												1 (1)				
(思想文化学科 計)					6 (1)		1	2	1 (1)		1	12 (4)		1	1 (1)	1

(歴史文化学科)

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	エネルギー	教育	官公庁	その他
専修課程																
日本史学					3	1	1				1	1			2 (1)	
東洋史学							3	1				1			1	
西洋史学	1	1				1	2 (1)	1 (1)			2	1			4 (1)	
考古学		1						1	1							
美術史学				2 (1)			2 (1)	1	1 (1)		1 (1)					
(歴史文化学科 計)	1	2	2 (1)		6 (3)	2	8 (2)	4 (1)	2 (1)		4 (1)	3		7 (1)	1	

(言語文化学科)

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	エネルギー	教育	官公庁	その他
専修課程																
言語学		1	1 (1)		1					1		1 (1)		1 (1)		
日本語日本文学(国語学)					1						1 (1)			1 (1)		
日本語日本文学(国文学)	1 (1)	1		1	1	2 (2)	2 (1)			1 (1)		3	1		1 (1)	
中国語中国文学																
インド語インド文学																
英語英米文学	3 (2)				3		1	2 (1)		1	2					
ドイツ語ドイツ文学											1 (1)					
フランス語フランス文学	1											1 (1)				
スラヴ語スラヴ文学							1 (1)									
南欧語南欧文学																
現代文芸論					1		3 (2)								1 (1)	1 (1)
西洋古典学																
(言語文化学科 計)	5 (3)	2	1 (1)	1	7	2 (2)	7 (4)	2 (1)		3 (1)	4 (2)	5 (2)	1	2 (2)	2	1 (1)

(行動文化学科)

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	エネルギー	教育	官公庁	その他
専修課程																
心理学					3		4 (2)		1 (1)	1	1 (1)	2	1		1 (1)	
社会心理学				1		1	3 (2)					3 (2)		1 (1)	1	
社会学	1	4 (1)	3	3 (2)	3 (1)	8 (4)	1	2 (1)	1	6 (4)	6 (2)			1	5 (2)	
(行動文化学科 計)	1	4 (1)	4	6 (2)	4 (1)	15 (8)	1	4 (2)	2	8 (5)	11 (4)	1	2 (1)	7 (3)		

( )内は、女子で内数

平成31(2019)年3月卒業生

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	エネルギー	教育	官公庁	その他
専修課程																
文学部全体	5 (2)	3 (1)	10 (1)	6 (1)	38 (13)	9 (4)	26 (12)	20 (4)	7 (2)	12 (4)	22 (5)	18 (7)	3	12 (3)	16 (7)	2

(思想文化学科)

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	エネルギー	教育	官公庁	その他
専修課程																
哲学					3	1	1	1							1 (1)	
中国思想文化学											1 (1)	1 (1)				
インド哲学仏教学												1		1		
倫理学							1 (1)				2			1		1
宗教学宗教史学							2		2 (2)						1 (1)	1
美学芸術学	2		1	2		2 (1)	1 (1)	1				2 (2)		2		
イスラム学																
(思想文化学科 計)	2		1	2	3	3 (1)	5 (2)	2	2 (2)		3 (1)	5 (3)		4	2 (1)	2

(歴史文化学科)

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	エネルギー	教育	官公庁	その他
専修課程																
日本史学		1	2		1	1	1 (1)	1	1	2 (1)	3			1 (1)	4 (1)	
東洋史学	1		1				1	1			1					
西洋史学					2 (1)	1 (1)	2		2	1	1				2	
考古学							2 (1)							1	1 (1)	
美術史学			1 (1)		3 (1)				1		1 (1)					
(歴史文化学科 計)	1	2 (1)	3		6 (2)	2 (1)	6 (2)	2	4	4 (1)	8 (1)			2 (1)	7 (2)	

(言語文化学科)

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	エネルギー	教育	官公庁	その他
専修課程																
言語学					1 (1)				1		1	2 (1)	1	2 (1)		
日本語日本文学(国語学)					3 (3)	1 (1)	1						1			
日本語日本文学(国文学)	1 (1)		1	1			2 (1)	1		1 (1)		1	1		1 (1)	
中国語中国文学																
インド語インド文学																
英語英米文学			1 (1)		6 (2)		2	4			1	4 (1)			1 (1)	
ドイツ語ドイツ文学																
フランス語フランス文学			1							1 (1)		1				
スラヴ語スラヴ文学					1 (1)											
南欧語南欧文学																
現代文芸論			1				1	1			1				1 (1)	
西洋古典学																
(言語文化学科 計)	1 (1)	1	3 (1)	1	12 (7)	1 (1)	6 (1)	6	1	2 (2)	3	8 (2)	3	2 (1)	3 (2)	

(行動文化学科)

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	エネルギー	教育	官公庁	その他
専修課程																
心理学					5		1	3 (2)		2	1	1		3		
社会心理学	1 (1)				5 (1)	2	4 (3)	2		1 (1)	4 (2)	2 (1)			2 (1)	
社会学			3	3 (1)	7 (3)	1 (1)	4 (4)	5 (2)		3	3 (1)	2 (1)		1 (1)	2 (1)	
(行動文化学科 計)	1 (1)		3	3 (1)	17 (4)	3 (1)	9 (7)	10 (4)		6 (1)	8 (3)	5 (2)		4 (1)	4 (2)	

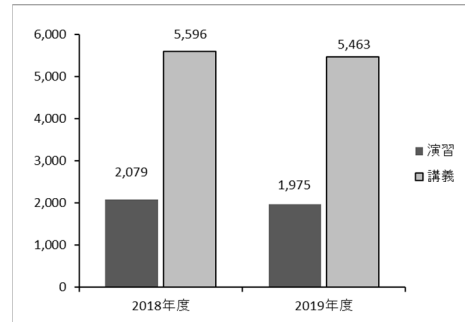
( )内は、女子で内数

## D 授業改善への取り組み

2009年度より研究科・文学部の取り組みとして、専任および非常勤教員と各研究室の協力を得て、授業改善アンケートを実施している。集計作業は、教育研究情報管理室が行なっている。このうち2018年度・2019年度に実施したアンケートの回答結果（[Q7]は除く）は下記の通りである。

なお、専攻ごと、学科ごとの集計も行なっているが、ここには、研究科・文学部全体の集計結果のみを掲載する。

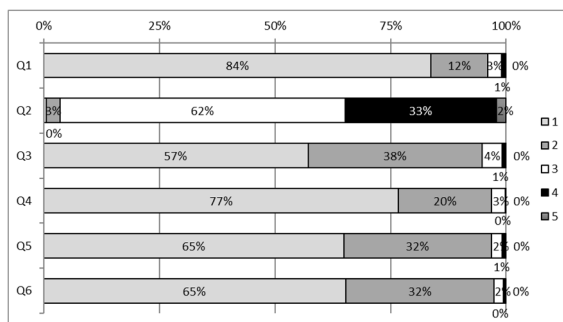
2018-2019年度 アンケート回答総数



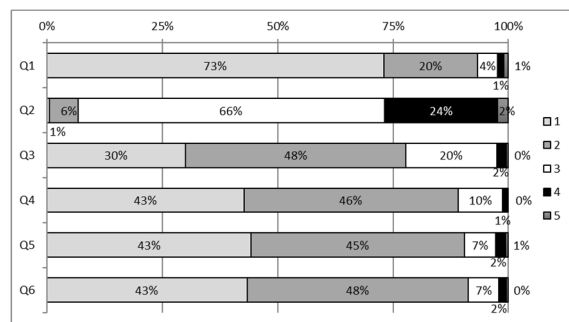
### 授業改善アンケート質問項目

- [Q1] あなたはこの授業にどれくらい出席しましたか？  
 1- 80%以上      2- 79%~60%      3- 59~40%      4- 39%~20%      5- 20%未満
- [Q2] あなたにとって授業の難易度はどうですか？  
 1- 易すぎる      2- やや易しい      3- ちょうどよい      4- やや難しい      5- 難すぎる
- [演習 Q3] 授業中、議論・質問の機会は適切に与えられていると思いますか？  
 1- 非常に適切である      2- 適切である  
 3- どちらでもない      4- あまり適切でない  
 5- まったく適切でない
- [講義 Q3] 教員の講義技術（説明の仕方や板書など）について、どう思いますか？  
 1- 非常に優れている      2- 優れている  
 3- どちらでもない      4- 劣っている  
 5- 非常に劣っている
- [演習 Q4] 授業中の質問に対する先生の対応はどうですか？  
 1- 大変熱心である      2- 概ね熱心である  
 3- 普通である      4- あまり熱心でない  
 5- 不熱心である
- [講義 Q4] 授業はよく準備・計画されていると思いますか？  
 1- とてもよく準備されている      2- よく準備されている  
 3- どちらでもない      4- やや準備不足である  
 5- 準備不足である
- [Q5] 授業を受講して、この授業がテーマとする分野への問題意識や関心は深まりましたか？  
 1- 大いに深まった      2- やや深まった      3- どちらでもない      4- あまり深まらなかった  
 5- まったく深まらなかった
- [Q6] 授業を受講して、新たな知識や知力が身についたと感じますか？  
 1- 非常に感じる      2- やや感じる      3- どちらでもない      4- あまり感じない  
 5- まったく感じない
- [Q7] 授業方法、設備などに関する改善要望や、その他意見、感想があれば下記および裏面に記入して下さい。（自由記述欄）

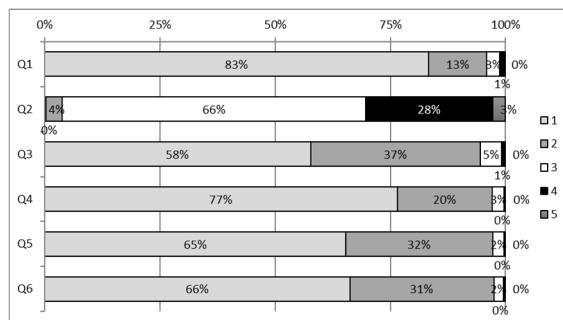
2018年度演習 回答傾向



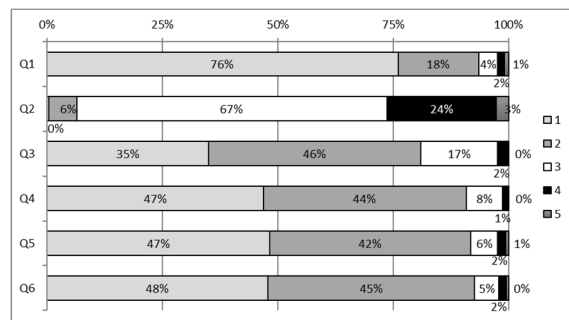
2018年度講義 回答傾向



2019年度演習 回答傾向



2019年度講義 回答傾向





## E 後期教養教育科目

総合的教育改革では、1, 2年生だけにとどまらない学部4年間を通しての後期教養教育の実施を構想してきた。現代の人間はさまざまな制約を受けている。日本語しか知らなければ、他言語の思考が日本語の思考とどのように異なるのか考えることができない。ある分野の専門家になっても、他分野のことを全く知らないと、目の前の大事な課題について他分野のひとと効果的な協力をすることができない。これらの制約から解放されて自由になるための知識や技芸が、リベラルアーツである。

これまで東京大学では前期課程の2年間で教養教育をおこなってきたが、教養教育は、専門課程にすすんだあとと続くべきものである。自分とは異なる分野を学び異なる価値観をもつ他者と出会うことによって、自らの専門が今の社会でどのような位置づけにあり、他領域とどう連携できるかに気づけるのである。そのためには、古典を読む、別分野の最先端の研究に触れる、詩にふれる、比較してみる、などさまざまな形が必要である。

このようなリベラルアーツにおいては、専門分野、言語、国籍、所属の境界を横断して複数の領域や文化を行き来することになり、よりダイナミックな思考が必要とされるであろう。たとえば他学部聴講は、出講学部のバックグラウンドをもつ学生のなかに、他学部のバックグラウンドをもつ少数の学生、つまりアウェイの学生が入ることである。そのアウェイの学生は、ホームの学部とアウェイの学部を往復することで、自らの専門性を相対化することができる。また学問の世界と現実の課題、あるいは専門的知性と市民的知性との間の往復は、自らの研究成果が社会のなかにどう取り込まれ展開されるのか想像する能力を涵養する。これは研究倫理を支える基盤ともなる。

このように、自分とは異なる専門や価値観をもつ他者と対話しながら、自分の価値観を柔軟に組み換えるリベラルアーツ教育を、後期課程のなかで展開するのが後期教養科目である。本学部では、2015年から後期教養科目の設立に参加し、初年度は53科目を当該科目として登録し、以降、年度ごとに約10科目ずつその数が増加している。2019年度からは大学院生の後期教養科目を新たに設定し、初年度は28科目が開講され、数は多くないものの、大学院生による広い知の展望への期待に込めている。

2018年度後期教養教育科目(学部)

科目名	講義題目	教員氏名	推奨科目	科目名	講義題目	教員氏名	推奨科目		
多分野講義II	メディア間翻訳・翻案研究 : 文学テキストの映像化・舞台化	小林 真理		西洋史学特殊講義I	中世ヨーロッパ世界、11～15世紀	高山 博			
		野崎 欽		西洋史学特殊講義II	中世シチリア王国研究	高山 博			
多分野講義IV	英語の小説を訳す／読む	阿部 公彦		西洋史学特殊講義III	古代ギリシアの国家と社会	橋場 弦	○		
		楠岡 求美		西洋史学特殊講義IV	アテナイ民主政の諸問題	橋場 弦			
死生学概論	死生学の射程	阿部 賢一		西洋史学特殊講義V	近現代フランスの政治と社会	長井 伸仁			
死生学特殊講義I	死と不安の社会学	柴田 元幸	○	西洋史学特殊講義VII	ソヴィエト期ロシアの国制と社会(1)	池田 嘉郎	○		
死生学特殊講義II	臨床死生学・倫理学の諸問題	堀江 宗正ほか		国文学特殊講義III	源氏物語研究入門	高木 和子			
死生学特殊講義III	臨床老年死生学入門	澤井 敦		国文学特殊講義IV	平安朝文学の研究	高木 和子			
死生学特殊講義IV	共感とケアの哲学	会田 薫子	○	国文学特殊講義VIII	総合日本文学研究	安藤 宏明			
死生学特殊講義V	自律についての関係的なアプローチの展開	早川 正祐				長島 泰明			
死生学特殊講義VI	死生のケアの現象学	早川 正祐				渡野 昌弘			
死生学特殊講義VII	事例から読み解く生きづらさ	榑 原 哲也				高木 和子			
死生学演習I	患いの語りをめぐる倫理	大塚 碩				齋藤 希史			
死生学演習II	スピリチュアリティ研究	早川 正祐				鈴木 将久			
死生学演習III	死生学基礎文献講読	堀江 宗正				水野 善文			
死生学演習IV	応用倫理入門	池澤 優				高橋 聖一			
応用倫理概論	応用倫理入門	池澤 優ほか	○			ドイツ語圏言語文化	ドイツ文学への誘い	宮田 峻治	○
応用倫理特殊講義I	質的研究法	会田 薫子				フランス語圏言語文化	フランス文学と映画	野崎 敦	
応用倫理特殊講義II	生と場所の環境倫理	福永 真弓		スラヴ語学スラヴ文学特殊講義IX	旧ソ連・東欧の映像と文学	沼野 充義			
応用倫理特殊講義III	〈環境—社会〉への語りと倫理	関 礼子		現代文芸論概説I	文芸批評理論(12)	大橋 洋一			
応用倫理特殊講義IV	現象学的な質的研究	村上 靖彦		近代文学特殊講義I	ことばと文化(9)	沼野 充義	○		
応用倫理演習I	科学的生命観と人生論的生命観III	小松 美彦		社会心理学概論I	社会・集団・家族心理学	村本 由紀子			
応用倫理演習II	環境倫理文献講読	池澤 優		社会心理学概論II	対人認知の社会心理学	唐 沢 かおり	○		
応用倫理演習III	環境思想研究	堀江 宗正		韓国朝鮮文化特殊講義I	朝鮮時代史論	六反田 豊			
インド哲学史概説I	インド思想史(1)	加藤 隆宏		韓国朝鮮文化特殊講義II	朝鮮前期清運研究	六反田 豊			
インド哲学史概説II	インド思想史(2)	加藤 隆宏		韓国朝鮮文化特殊講義III	社会人類学方法論	本 田 洋			
仏教概論I	仏教思想の概要	下田 正弘		韓国朝鮮文化特殊講義IV	韓国の社会問題と社会政策I	金 成 垣			
比較仏教論	アジア世界の仏教	義 輪 顕 量	○	韓国朝鮮文化特殊講義V	韓国の社会問題と社会政策II	金 成 垣			
インド哲学仏教特殊講義I	中国禅宗文献講読	土 屋 太 祐		文化交流特殊講義I	日本のなかの中国文化	小島 毅	○		
インド哲学仏教特殊講義II	中国禅宗文献講読(2)	小 川 隆		文化交流特殊講義II	ヨーロッパ風景文化史	河 村 英 和			
インド哲学仏教特殊講義III	上座部戒律文献講読	下田 正弘		文化人類学	社会人類学方法論	本 田 洋			
倫理学概論I	倫理学ならびに実践哲学の基本概念	青野 道彦		フランス語前期I	フランス語前期I	横山 安由美			
倫理学概論II	日本倫理思想史概説	熊野 純彦		フランス語前期II	フランス語前期II	横山 安由美			
美学概論	カントからの美学入門(5)	頼 住 光 子	○	フランス語後期I	フランス語後期I	秋山 伸子			
芸術概論	感性文化とメディア論	小田部 胤久		フランス語後期II	フランス語後期II	秋山 伸子			
日本史学特殊講義III	東京帝国大学と陸海軍	渡 辺 裕	○	原典を読むI	Hermann Hesse: „Knulp”より第3部 „Das Ende” を読む	大 宮 勲 一郎			
東洋史学特殊講義III	近世海城アジアの商業ネットワーク	鈴木 淳	○	朝日講座「居場所」の未来	朝日講座「居場所」の未来	祐 成 保 志	○		
東洋史学特殊講義IV	江戸からイスファハーンまで	島田 竜登				六反田 豊			
東洋史学特殊講義V	朝鮮時代史論	六反田 豊							
東洋史学特殊講義VI	朝鮮前期清運研究	六反田 豊							
西洋史学研究入門		橋場 弦							
		高山 博							
		長井 伸仁							
		勝田 俊輔							

2019年度後期教養教育科目(学部)

科目名	講義題目	教員氏名	推奨科目
研究倫理入門	メディア間翻訳・翻案研究 文学テキストの映像化・舞台化	小松美彦	○
多分野講義Ⅱ	メディア間翻訳・翻案研究 文学テキストの映像化・舞台化(2)	小林真理 渡部明治 宮田俊 樋岡求美	
死生学概論	死生学の射程	堀江宗正 ほか	○
死生学特殊講義Ⅰ	日本人の死生観	堀江宗正	
死生学特殊講義Ⅱ	死生のケアの現象学	榊原哲也	
死生学特殊講義Ⅲ	死と不安の社会学	澤井敦	
死生学特殊講義Ⅳ	臨床死生学・倫理学の諸問題Ⅰ	会田薫子	
死生学特殊講義Ⅴ	臨床死生学・倫理学の諸問題Ⅱ	会田薫子	
死生学特殊講義Ⅵ	臨床老年死生学入門	会田薫子	
死生学特殊講義Ⅶ	共感とケアの哲学	早川正祐	
死生学特殊講義Ⅷ	認識をめぐる不正義と責任 現代認識論の一展開	早川正祐	
死生学特殊講義Ⅸ	自律についての関係的なアプローチ	早川正祐	
死生学特殊講義Ⅹ	死生学をめぐる偶然と確率	森立祐輝	
死生学演習Ⅰ	生権力・生政治論の新展開	小松美彦	
死生学演習Ⅱ	批判的死生学	堀江宗正	
死生学演習Ⅲ	死生学基礎文献講読	池澤優	
死生学演習Ⅳ	病いの語りをめぐる倫理	早川正祐	
応用倫理概論	応用倫理入門	池澤優 ほか	○
応用倫理特殊講義Ⅰ	先端医療と死生観	小松美彦	
応用倫理特殊講義Ⅱ	現代の「野暮」に抗うために	田中智彦	
応用倫理特殊講義Ⅲ	環境と災害を「物語る」	関 礼子	
応用倫理特殊講義Ⅳ	現象学的な質的研究	村上靖彦	
応用倫理特殊講義Ⅴ	環境思想	堀江宗正	
応用倫理演習Ⅰ	科学的生命観と人論的生命観Ⅳ	小松美彦	
応用倫理演習Ⅱ	環境倫理文献講読	池澤優	
応用倫理演習Ⅲ	未来倫理の探究	堀江宗正	
応用倫理演習Ⅳ	質的研究法入門	会田薫子	
インド哲学史概説Ⅰ	インド思想史	加藤隆宏	
比較仏教論	アジア世界の仏教	義輪 顕量	○
インド哲学仏教特殊講義Ⅰ	中国禅宗文献講読	小川 隆	
インド哲学仏教特殊講義Ⅱ	東アジア仏教文献講読	船山 徹	
インド哲学仏教特殊講義Ⅲ	上座部仏教文献講読	馬場 紀寿	
インド哲学仏教特殊講義Ⅳ	上座部仏教文献講読	馬場 紀寿	
インド哲学仏教特殊講義Ⅴ	上座部戒律文献講読	下田 正弘	
インド哲学仏教特殊講義Ⅵ	上座部戒律文献講読	青野 道彦	
倫理学概論Ⅰ	近世海城アジアの商業ネットワーク 江戸からスファハーンまで	熊野 純彦	○
倫理学概論Ⅱ	日本倫理思想史概説	類住 光子	
西洋倫理思想史概説Ⅰ	実在論と懐疑論をめぐる倫理思想史(1)	古田 徹也	
西洋倫理思想史概説Ⅱ	実在論と懐疑論をめぐる倫理思想史(2)	古田 徹也	
東洋倫理思想史概説Ⅰ	倫理学・日本倫理思想史の基礎(1)	吉田 真樹	
東洋倫理思想史概説Ⅱ	倫理学・日本倫理思想史の基礎(2)	吉田 真樹	
倫理学特殊講義Ⅰ	近代倫理思想の基本問題とその源流	古田 徹也 池松辰男	
倫理学特殊講義Ⅱ	ジャン=ジャック・ルソー問題	荒谷 大輔	
倫理学特殊講義Ⅲ	カントの観念論論駁の諸文脈	城戸 淳	
倫理学特殊講義Ⅳ	神道と儒教	板東 洋介	
美学概論	美学概論	三浦 俊彦	
芸術学概論	芸術学概論	三浦 俊彦	○
イスラーム学概論Ⅱ	カルアーンとイスラーム諸学	菊地 達也	○
日本史特殊講義Ⅲ	明治期社会経済史研究	鈴木 淳	
東洋史特殊講義Ⅲ	近代東南アジアの経済と社会	島田 竜登	
東洋史特殊講義Ⅳ	朝鮮時代史論	六反田 豊	
東洋史特殊講義Ⅴ	朝鮮前期清運研究	六反田 豊	

科目名	講義題目	教員氏名	推奨科目
西洋史学研究入門		勝田 俊輔 橋本 伸嘉 長田 田部 戸部 嘉彰	
西洋史学特殊講義Ⅰ	中世ヨーロッパ世界、5～11世紀	高山 博	○
西洋史学特殊講義Ⅱ	古代ギリシアの国家と社会	橋本 悠	
西洋史学特殊講義Ⅲ	アテナイ民主政の諸問題	橋本 悠	
西洋史学特殊講義Ⅳ	近現代フランスの政治と社会	長井 伸仁	
西洋史学特殊講義Ⅴ	ソヴェト期ロシアの国制と社会	池田 嘉郎	
国文学特殊講義Ⅲ	源氏物語の研究	高木 和子	
国文学特殊講義Ⅳ	平安朝文学の研究	高木 和子	
国文学特殊講義Ⅴ	和歌史の研究	渡部 泰明	○
国文学特殊講義Ⅶ	総合日本文学研究	渡部 泰明 安藤 昌弘 鉄野 昌弘 高木 和子 高橋 至子	
中国語学中国文学演習Ⅲ	中国近現代文学を讀む	鈴木 将久	
中国語学中国文学演習Ⅳ	古典詩文入門	齋藤 希文	○
印度文学史概説Ⅰ	インド古代中世文学・文献案内	水野 善文	
印度文学史概説Ⅱ	インド哲学文献概論	高橋 晃一	
ドイツ文学史概説Ⅰ	ドイツ中世文学史概説	山本 潤	○
ドイツ文学史概説Ⅱ	ドイツ抒情詩の歴史	宮田 眞治	
ドイツ語圏言語文化Ⅰ	ドイツ中世文学研究入門	山本 潤	
フランス語学概論Ⅰ	フランス語学概論Ⅰ	杉山 利恵子	
フランス語学概論Ⅱ	フランス語学概論Ⅱ	杉山 利恵子	
フランス語圏文化	Hermann Hesse: „Knulp“ より 第3部 „Das Ende“ を讀む	王 寺 賢 太	○
スラヴ語学概論	スラヴ語学入門	三谷 恵子	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅰ	ロシア・東欧の言語と民族	三谷 恵子	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅳ	旧ソ連東欧の映像と文学	沼野 充義 阿部 賢一 高橋 知之 越野 剛	○
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅴ	ロシア小説講義(2)19世紀	沼野 充義	
現代文芸論概説Ⅰ	文化批評(1)	阿部 賢一	
社会心理学概論Ⅰ	社会・集団・家族心理学	村本 由紀子	○
社会心理学概論Ⅱ	公共政策と心理学	白岩 祐子	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅰ	朝鮮時代史論	六反田 豊	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅱ	朝鮮前期清運研究	六反田 豊	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅲ	韓国の社会問題と社会政策Ⅰ	金 成 垣	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅳ	韓国の社会問題と社会政策Ⅱ	金 成 垣	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅴ	海城アジア世界とユーラシアの交流史	四日市 康博	
文化交流特殊講義Ⅰ	風土の文化史	水口 拓寿	
文化交流特殊講義Ⅱ	古代ギリシア美術の諸問題	芳賀 京子	○
文化交流特殊講義Ⅲ	古代ローマ美術の諸問題	芳賀 京子	
文化交流特殊講義Ⅳ	ゴシック美術の諸相	黒岩 三 恵	
文化交流特殊講義Ⅴ	ゴシック美術の諸相	本田 洋	
文化人類学	文化人類学	山内 由理子	
日本の思想と宗教	日本の禅思想	石井 清純	
フランス語前期Ⅰ	フランス語前期Ⅰ	井上 櫻子	
フランス語前期Ⅱ	フランス語前期Ⅱ	井上 櫻子	
フランス語後期Ⅰ	フランス語後期Ⅰ	横山 安由美	
フランス語後期Ⅱ	フランス語後期Ⅱ	横山 安由美	
朝日講座「つながり」から読み解く人と世界	朝日講座「つながり」から読み解く人と世界	六反田 豊 菊池 達也	○

2019年度後期教養科目開講一覧(大学院)

科目名	開講講義名	担当教員
倫理学特殊研究	日本の禅思想	石井 清純
倫理学特殊研究	ジャン=ジャック・ルソー問題	荒谷 大輔
倫理学特殊研究	カントの観念論論駁の諸文脈	城戸 淳
倫理学特殊研究	神道と儒教	板東 洋介
日本語日本文学特殊研究	総合日本文学研究	渡部泰明、安藤昌弘、鉄野昌弘、高木和子、佐藤至子
日本語日本文学特殊研究	中世・近世文学史の研究	渡部泰明、佐藤至子
東アジア思想文化学演習	宋学研究	小島 毅
インド哲学仏教特殊研究	中国禅宗文献講読	小川 隆
インド哲学仏教特殊研究	東アジア仏教文献講読	船山 徹
南アジア社会文化論特殊研究	上座部仏教文献講読	馬場 紀寿
南アジア社会文化論特殊研究	上座部仏教文献研究	馬場 紀寿
インド語-インド文学特殊研究	タミル語文献講読(1)	宮本 城
インド語-インド文学特殊研究	タミル語文献講読(2)	宮本 城
インド哲学仏教学演習	インド哲学文献研究(1)	加藤 隆宏
インド哲学仏教学演習	インド哲学文献研究(2)	加藤 隆宏
インド哲学仏教学演習	大乗経典研究(1)	下田 正弘
インド哲学仏教学演習	大乗経典研究(2)	下田 正弘
インド哲学仏教学演習	日本仏教文献研究(1)	義輪 顕量
インド哲学仏教学演習	日本仏教文献研究(2)	義輪 顕量
インド哲学仏教学演習	インド仏教文献研究(1)	高橋 晃一
インド哲学仏教学演習	インド仏教文献研究(2)	高橋 晃一
イスラーム学特殊研究	イスラーム法と預言者伝承	柳橋 博之
スラヴ語圏言語文化特殊研究	旧ソ連東欧の映像と文学	沼野充義、樋岡求美、阿部賢一、高橋知之、越野剛
スラヴ語圏言語文化特殊研究	ロシア小説講義(2)19世紀	沼野 充義
スラヴ語圏言語文化特殊研究	ロシア・東欧の言語と民族	三谷 恵子
社会文化研究演習	論文の書き方/社会学篇	佐藤 健二
社会文化研究演習	社会階層に関する実証研究	白波瀬 佐和子
社会文化研究演習	社会問題の社会学	赤川 学

(3) 国際卓越大学院人文社会系研究科次世代育成プログラム

「国際卓越大学院 人文社会系研究科 次世代育成プログラム」は、本研究科各専門分野において蓄積された人文知の基礎の上に立ち、かつてない規模と速度で変化し複雑化する価値観に柔軟に対応しつつ、人類の健全な発展に貢献し得る博士人材の育成を目的とするものである。本研究科諸学における基礎的な研究能力の修得を目的とする

専攻・専門分野のプログラムに加えて、新たな研究領域開拓や国際発信等を旨とした本プログラムを履修する二層構造としているのが特徴である。

本プログラムは、修士課程から実践的な研究活動を促進するための「学術活動課題演習」を必修としている他、様々な事象を俯瞰的に見渡し、多様な人々の声に耳を傾け発信する能力を養うために設置された「死生学研究・応用倫理研究」、「人文情報学」、「他研究科開講科目」、「アカデミック・ライティング（英語）」、「新・日本学」などの選択必修科目を履修することとなる。また、2020年4月に、博士課程プログラムが開設されるにあたり、より実践的な研究活動を促進するための必修科目や選択必修科目を整備しているところである。なお、修士課程プログラムに先立ち、学部プログラムを設けて、早期から研究への意欲を高めるため、大学院科目の履修を推奨し、大学院進学後は単位として認定することが可能となっている。

修士課程から奨励金が支給され、博士課程では国内外での研究活動を研究科として支援する仕組みを整えたところである。学部・修士・博士連携プログラムであるため、学部プログラムからの一貫した履修を原則とするが、大学院入学試験において特に優秀な成績を収めた学生を対象として、修士から選抜も行うこととしている。博士課程進学に当たっては、日本学術振興会特別研究員（DC1）への応募を義務付けている。

2018年4月に開設された修士課程プログラムに2017年4月に開設された学部プログラム30名の学生の中から選考された10名の学生が、2018年4月に第1期生として修士課程に入学し、2019年4月に入学した11名とともに修士課程プログラムに在籍した。

### 3. 国際交流

#### (1) 留学生教育と国際交流活動

##### A 留学生教育

2016年12月に実施した留学生関係者の座談会で明らかになった3つの課題、すなわち、1) 論文作成のための日本語指導の充実、2) 日本人との対人関係構築力の養成、3) 専門教育と日本語教育をつなぐ科目の設置を実現するため、以来教育内容の充実化を進めてきた。

1) については、科目の内容について、入試準備や論文作成の前提となる知識に対する要望が強いことが明らかになったため、Semester中だけでなく、集中講座の科目内容も、それに合わせた見直しを行った。また、授業外でも支援が受けられるよう、2018年度A Semesterから、作文の添削、学習方法の相談等、学習支援を行う「学習サポート」制度を立ち上げ、チューターのいない留学生や、日本人との接触のない留学生がいつでも相談できる体制を整えた。サポーターは専門の異なる博士課程の院生に依頼し、2018年度は4人、2019年度は3人で、両年ともに、週2回、1回1コマを基本とし、希望が多いときは追加して実施した。

2) については、2018年度に、大学総合教育研究センターとの連携で、対人関係を考える講座「楽しい留学生生活を送るには？日本での人間関係を学ぶセミナー」（春季日本語集中講座として実施）を行うとともに、昼食を食べながら、さまざまな課題について考える「フレンドシップランチ」を6回行った。しかしながら、留学生の集まりが少なく、2019年度はいずれも実施しなかった。同じく、2016年度より行ってきた日本人と留学生の交流の場としての水曜ランチ会も、集まる留学生が減ってきたことから2019年度からは行わないこととした。ただ、夏の納涼会、冬のお雑煮会は徐々に参加者が増える傾向にあり、継続している。

3) については、2つの方向から取り組みを行ってきた。まず一つは、専門研究と日本語教育をつなぐ文語文等の指導である。研究上文語文法の知識を必要とする学生のためにすでにSemester中の科目として「古典入門」を開講していたが、既習者と新規者との差が大きくなってきたため、さらにSemester中に「文語文献講読」を開講し、既習者も学習を続けられる体制を整えた。加えて、これまでの夏季集中講座の「漢文に挑戦してみよう！」も、「漢文の基礎」と名称を変え、「古典入門」とも関連づけて、基本を着実に学べる内容とした。そのほか、「くずし字」学習への要望も強いことがわかってきたため、総長裁量経費の補助により、東北大学との連携による公開研究会「留学生への文語文・くずし字指導を考える」を行い、同じ状況にある大学と課題を共有する機会をもった。もう一つの方向は、専門教育の前提として知っておくべき、日本に関する教養的知識の指導である。これは、2017年度から特別講座の形で「日本史I&II」を開講してきたが、2018年度には、それに加えて、「日本の近現代文学I&II」、「日本の古典文学I&II」、「くずし字入門」、「日本の宗教」、「日本の思想と文化」、「日本の政治」、「日本の現代社会」を開講した。2019年度は、「日本の古典文学I&II」と「くずし字入門」をひとつにまとめて、「くずし字解説」とし、さらに、「日本の映画」、「日本の年中行事と冠婚葬祭」を加えて開講した。担当する院生の要望もあり、2019年度から、本研究科独自に、日本語授業を補助する身分として、留学生特別講座プログラム Lecture Assistant を設け、担当する院生に認定書を授与することとした。

日本文化を学ぶ行事としては、留学生見学旅行が代表としてあるが、2018年度には、日帰りで、国立歴史民俗博物館、成田山新勝寺、佐倉の街並みなどの見物をし、2019年度は、1泊で、三嶋神社、葦山反射炉、MOA美術館などを訪問した。その他、2018年度は、江戸文化1日体験として、浅草の演芸ホールで落語鑑賞をしたあと、江戸切子ガラス製作を行い、2019年度は、文楽観賞と宝塚歌劇団の観劇を計画した。文楽鑑賞はかろうじて実施できたが、2回予定していた宝塚歌劇団の観劇は、いずれも新型コロナウイルス感染症のため中止となってしまった。宝塚歌劇団の観劇は非常に人気があったため、2020年度には実施する予定である。

**国又は地域別外国人留学生数**

各年度5月1日現在

国または地域名	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	令和元(2019)年度
<b>アジア</b>					
韓国	61	53	52	47	49
シンガポール	1	1	1	1	1
スリランカ					1
タイ	1				1
台湾	11	9	8	8	9
中国	71	74	82	73	83
中国(香港)	1	2	4	2	5
バングラデシュ				1	
ベトナム					1
モンゴル	1	1	1		
小計	147	140	148	132	150
<b>中近東</b>					
イラン	1	1			
トルコ					2
小計	1	1	0	0	2
<b>アフリカ</b>					
モーリシャス			1		
小計	0	0	1	0	0
<b>オセアニア</b>					
オーストラリア		1	2	2	
小計	0	1	2	2	0
<b>北米</b>					
アメリカ合衆国	2	2	2	1	1
小計	2	2	2	1	1
<b>中南米</b>					
バラグアイ	1	1	1	1	
ブラジル		1	1		
ベネズエラ			1		
小計	1	2	3	1	0
<b>ヨーロッパ</b>					
イギリス	2		1		
イギリス(香港)		1			
イタリア	1		1		
オーストリア		1			
カザフスタン	1	1	1	1	
スペイン	1				
スロベニア			1	1	1
ドイツ	1	1			
フィンランド	3	1			
フランス	1	2	1	2	2
ブルガリア					1
ベラルーシ				1	1
ポーランド	2	3	3	3	3
ルーマニア					1
ロシア	3	2	2	2	3
小計	15	12	10	10	12
合計	166	158	166	146	165

## B 留学生派遣

大学院人文社会系研究科・文学部は留学生を受け入れるばかりではなく、数多くの学生を海外に派遣してきた。その派遣先は、アジア、アメリカ、アフリカ、オーストラリア、ヨーロッパの国々のさまざまな大学である。

### ●海外へ留学・修学した学部生

令和2（2020）年6月1日現在

年度	海外留学・修学者の合計	内訳			
		アメリカ	イギリス	カナダ	その他
平成28 (2016) 年度	海外修学 5名	3名	2名		
	留学 12名	3名	3名		インドネシア 1名 オーストラリア 1名 スイス 1名 スペイン 1名 フィンランド 1名 フランス 1名
平成29 (2017) 年度	海外修学 8名	2名	2名	1名	イスラエル 1名 ドイツ 1名 メキシコ 1名
	留学 37名	4名	8名		オーストラリア 2名 オランダ 1名 韓国 4名 スイス 1名 スウェーデン 1名 台湾 1名 中国 2名 デンマーク 3名 ドイツ 2名 ニュージーランド 2名 フィンランド 1名 フランス 3名 香港 1名 ロシア 1名
平成30 (2018) 年度	海外修学 6名			2名	オーストラリア 1名 タイ 1名 チェコ 1名 フランス 1名
	留学 28名	1名	7名	1名	インドネシア 2名 韓国 3名 スイス 1名 スウェーデン 4名 タイ 1名 中国 1名 ドイツ 1名 ニュージーランド 1名 フィンランド 2名 フランス 3名
令和元 (2019) 年度	海外修学 5名	2名		1名	アイルランド 1名 フィリピン 1名
	留学 29名	3名	8名		オランダ 1名 韓国 4名 スイス 2名 タイ 1名 中国 3名 デンマーク 2名 ニュージーランド 3名 フィンランド 1名 フランス 1名

### ●海外へ留学・修学した大学院生

年度	学生身分	異動区分名	計	内訳												
				韓国	台湾	中国	アメリカ	イギリス	イタリア	オーストラリア	スイス	ドイツ	フランス	ロシア	その他	
平成28 (2016) 年度	修士課程	休学(海外修学)	0													
		留学	8						6			1		オランダ 1名		
		研究指導委託	0													
	博士課程	休学(海外修学)	28	2		2	8		3	2	1	1	2	3	スペイン 1名 チェコ 1名 トルコ 1名 ベトナム 1名	
		留学	6	1					2				3			
平成29 (2017) 年度	修士課程	休学(海外修学)	2											1	チェコ 1名	
		留学	4						1		1				香港 2名	
		研究指導委託	0													
	博士課程	休学(海外修学)	32	1		1	8		6	1			5	7	1	エジプト 1名 フィンランド 1名
		留学	11	2		1	1		2				2	1		スペイン 1名 ベトナム 1名
平成30 (2018) 年度	修士課程	休学(海外修学)	2												チェコ 2名	
		留学	4						3			1				
		研究指導委託	0													
	博士課程	休学(海外修学)	43	1		4	8		9	1			1	5	8	エジプト 1名 スペイン 1名 デンマーク 1名 トリニダード・トバゴ 1名 フィンランド 1名 香港 1名
		留学	12	2		1	1	1	1				1	4	1	
令和元 (2019) 年度	修士課程	休学(海外修学)	2						1						チェコ 1名	
		留学	4						1			2		1		
		研究指導委託	0													
	博士課程	休学(海外修学)	45	1		4	8		2	7	1	1	2	4	10	イスラエル 1名 インド 1名 オランダ 1名 フィンランド 1名 香港 1名
		留学	10		1	1	1		1				1	4	1	ウクライナ 1名 ベルギー 1名
	研究指導委託	11			1	1			1				6			

### C 外国人研究員受け入れ

本学は、多くの海外諸機関と学術協定を結んでおり、研究者の交流も活発に行われている。

毎年、海外から研究者を人文社会系研究科内規によって人文社会系研究科外国人研究員として受け入れている。

#### ●外国人研究員(国籍別人数)

(※文学部／大学院人文社会系研究科内規による)

国または地域名	平成 27(2015)年度	平成 28(2016)年度	平成 29(2017)年度	平成 30(2018)年度	令和元(2019)年度
<b>アジア</b>					
インド					1
韓国	3	5	4	4	1
台湾		2	3		2
中国	16	15	10	11	13
フィリピン	1	1			
ベトナム				1	
ミャンマー				1	
<b>中近東</b>					
イスラエル	1	2	3	2	
<b>アフリカ</b>					
モーリシャス			1	1	
<b>オセアニア</b>					
オーストラリア	1				
<b>北米</b>					
アメリカ合衆国	10	5	4	5	3
<b>中南米</b>					
エクアドル			1	1	1
<b>ヨーロッパ</b>					
アイルランド					1
イギリス				1	1
イギリス・イタリア				1	
イタリア	2				
エストニア			1		
オーストリア	1	1			
オランダ	1		2		
ジョージア				1	1
スイス			1		
スペイン		1			
ドイツ	4	4	1	3	2
ハンガリー	1				
フランス	3	2	2	2	1
ブルガリア		1			
ポーランド	5	2	4	1	3
ルーマニア				1	
ロシア	1	1	3		1
<b>合 計</b>	<b>50</b>	<b>42</b>	<b>40</b>	<b>36</b>	<b>31</b>

### D 夏期・冬期特別プログラム

文学部では、2014年1月に英国・セインズベリー日本藝術研究所との間で部局間学術交流協定を結び、学部教育の総合的改革の一環として、14年度から学部学生の国際的な相互交流を目的とした、夏期および冬期特別プログラムを実施している。これまで夏7回、冬5回におよぶプログラムを実施してきた。夏期特別プログラムは、文学部がホストとなり、夏期の授業休止期間(9月)を利用して、英国を始めハンガリーやルーマニアから学部生4~5名を東大本郷キャンパスと研究科附属北海文化研究常呂実習施設(北海道北見市)に招き、英語を使用言語としながら、講義・実習、遺跡の発掘体験、博物館・美術館見学、史跡踏査、グループ・ワーク等を通して、考古学・美術史学・文化資源学等を学んでいる。冬期特別プログラム(2月)は、反対にセインズベリー研究所がホストとなり、東大の学部生4~5名が、ロンドンとセインズベリー研究所が所在する英国南東部のノーフォーク州や南西部のソールズベリー等を訪れ、同様の学習と交流体験を積んだ。

本プログラムは、全学の学部課程に開かれているため、東大側の参加学生は文学部に限られず、法学部・工学部・教養学部(前・後期)からの参加もあった。約2週間にわたるプログラム期間中は、東大と海外の学生たちはホテル

や宿舍で同室となるため、文字通り寝食を共にしながら、グループ・ワークや体験学習・講義・実習等の様々な国際交流体験を積む。そのため最初は英語での会話や議論に参加しづらかった学生も、終了近くになると互いに学問や人生観を戦わすまでになる。日本文化に関する博物館展示では、東大生が英国側の学生に対して展示解説を担当することもあった。参加した学生にはプログラム終了時にレポートの提出を課しているが、みな様にプログラムへの参加経験を誇りに思っており、その多くがプログラム終了後も引き続き相互交流を続けている。そのため複数回の参加希望も多い。なお2019年度の冬期特別プログラムは、英国における新型コロナ・ウイルス感染症の影響を受けることなく無事終了することができた。

参加学生の枠（日英各定員5名）は限られているが、その分丁寧なスケジュールリングにより濃密な体験を経ることで、高い教育効果を上げることができている。

特別プログラム	期間・実施場所	参加学生
2018年度夏期	2018年9月8日～22日 東京/常呂実習施設	東大4名（文1、前期2、教養1） 海外5名（英3、ハンガリー1、ルーマニア1）
2018年度冬期	2019年2月9日～22日 ロンドン/英国南西部・ノーフォーク州	東大5名（文3、前期1、工1） 海外5名（英5）
2019年度夏期	2019年9月9日～23日 東京/常呂実習施設	東大5名（文1、前期4） 海外4名（英5）
2019年度冬期	2020年2月5日～14日 ロンドン/英国南西部	東大5名（文2、前期2、法1） 海外5名（英5）

#### E 「新・日本学」構想に向けた海外研究者による特別講義シリーズ

実施期間	平成30（2018）年7月23日～平成31（2019）年1月30日
実施状況	<p><b>【特別講義シリーズⅠ】</b>            テーマ：日本仏教史の転換点            招聘教授：Jacqueline Stone 教授（アメリカ・プリンストン大学）            開講日時：平成30年7月23日～25日</p> <p><b>【特別講義シリーズⅡ】</b>            テーマ：外から見た日本近代史            招聘教授：Regine Mathias 教授（ドイツ・ボーフム大学）            開講日時：平成31年1月28日～30日</p> <p><b>【特別講義シリーズⅢ】</b>            テーマ：モダニティと日本社会の研究            招聘教授：一條 都子准教授（イギリス・キングストン大学）            開講日時：平成31年1月28日～30日</p>
実施期間	令和元（2019）年7月8日～令和2（2020）年1月29日
実施状況	<p><b>【特別講義シリーズⅠ】</b>            テーマ：世界の縄文研究            招聘教授：サイモン・ケーナー教授（イギリス・イーストアングリア大学）            開講日時：令和2年1月27日～29日</p> <p><b>【特別講義シリーズⅡ】</b>            テーマ：比較写本学—東アジアとヨーロッパの注釈付きテキストをめぐって            招聘教授：John Whitman 教授（アメリカ・コーネル大学）            開講日時：令和元年7月8日～10日</p>

	<p><b>【特別講義シリーズⅢ】</b>          テーマ：言語についての日本の理論：空海から現代まで          招聘教授：Thomas P.kasulis 教授（アメリカ・オハイオ州立大学）          開講日時：令和元年 11 月 25 日～27 日</p>
実施結果	<p>本事業は、毎年 3 名の著名な研究者を海外から招聘し、東京大学大学院人文社会系研究科の大学院生に向けて英語による授業を提供するものである。東京大学にいながらにして、欧米における当該分野の代表的研究者から直接指導を受ける経験は、本学の学生にとって極めて刺激的で国外への日本学発信に向けての強い動機付けを与えることができた。</p> <p>本事業を実施した効果は、双方向形式の英語による授業は、学生たちの知的関心を刺激し、出席者アンケートから新たな日本学に向けた有意義な経験であったとの声に認められた。本事業を継続、発展させることで、次世代の「新・日本学」構想を展開する際の国際的なハブ構築設立への一助となった。</p>

#### F オークランド大学でのアカデミック英語短期集中プログラム

実施期間	<p>平成 30（2018）年度：平成 31（2019）年 3 月 11 日～3 月 22 日          令和元（2019）年度：令和 2（2020）年 3 月 9 日～3 月 21 日</p>
実施状況	<p>本事業は、人文社会学系研究分野の成果を積極的に国外発信するために、(1)高度なアカデミック英語の習得と、(2)若手教員のファカルティ・ディベロップメント（FD）の一環として英語による授業提供のためのトレーニングを受けることにある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加プログラム：オークランド大学附属英語アカデミー          （English Learning Academy 【略称：ELA】）での語学研修プログラム</li> <li>・参加者数：           <ul style="list-style-type: none"> <li>[平成 30 年度]</li> <li>東京大学大学院人文社会系研究科修士課程・博士課程所属院生 12 名</li> <li>東京大学大学院人文社会系研究科教授・准教授 2 名</li> <li>[令和元年度]</li> <li>東京大学大学院人文社会系研究科修士課程・博士課程所属院生 12 名</li> <li>東京大学大学院人文社会系研究科准教授 1 名</li> </ul> </li> <li>・募集方法           <ul style="list-style-type: none"> <li>東京大学文学部の website（在学生ポータル）で告知、募集開始。参加申込者に対し、書類選考の後、申込者に通知。</li> </ul> </li> <li>・プログラム概要：           <ul style="list-style-type: none"> <li>ELA の指導のもと、授業では全体を通して、アカデミックな場面におけるリスニング、スピーキング、ライティングに焦点が置かれた。英語を実際に使って交流、口頭発表、議論を行う機会も積極的に組み込まれた。二週目以降は、受講者たちの問題関心に近いオークランド大学の授業を聴講する機会があり、今後、研究者として海外で活躍するための知識を習得した。</li> </ul> </li> </ul> <p>本事業を実施しての効果として 2 点ある。まず、若手教員にとって、大学院生の引率など、実質的な FD の経験を積むことができ、海外において研究のみならず教育の現場を体感することができた。第 2 に、大学院生たちにとっては、英語によるプレゼンや議論を重ねることで、今後、海外での研究活動を視野にいれたキャリアプランを立てる強い動機付けとなった。本事業が、世界的視野をもった「知のプロフェッショナル」を育成するための基礎力養成としての高い効果を認めることができた。</p>



(2) 国際交流協定

A 学術・学生関係

国名等	#	大学名	有効期限	署名者及び署名年月日		協定の内容	
				本学	相手方の大学	専門分野	交流の対象
インド	1	テリ大学	2021/5/16	総長、人文科学研究科 委員会委員長 1980/3/25 1983/3/25 1986/4/22 1992/7/8 2016/5/17	副総長、事務局長 1980/5/1 1983/5/2 1986/5/1 1992/7/20 2016/3/31	(派遣)インド哲学、仏教学、サンスクリット、インド史 (受入)日本仏教・中国仏教・インド仏教の思想 と歴史、インド哲学、サンスクリット、チベット研究、日 本研究	1. 大学院学生(協定書で学生の在籍研究科・ 学科を指定)
中国	2	北京大学	2023/12/16	総長 1985/3/25 2003/12/17 2009/7/21 2014/3/20 2019/4/1	校長 1985/3/25 2003/11/7 2009/7/21 2014/6/11 2019/4/15	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教官及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
韓国	3	ソウル大学校	2020/8/16	総長 1990/8/17 1995/12/4 2000/12/21 2005/10/29 2012/7/25 2016/7/22	総長 1990/8/17 1995/12/14 2001/1/22 2005/10/29 2012/5/5 2016/7/22	相互に関心を持つ分野	1. 教員 2. 学生 3. 学術情報及び資料の交換 4. 共同研究、シンポジウム及び講演の実施
	4	高麗大学校	2015/10/27	総長 2005/10/28 2014/3/27	総長 2005/10/28 2014/4/18	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
イラン	5	テヘラン大学	2022/4/22	総長 1997/3/7 2002/8/12 2007/5/25 2009/9/19 2013/2/20 2017/12/5	総長 1997/4/23 2002/8/27 2007/6/12 2009/9/19 2013/4/28 2017/12/23	(派遣)イスラム学、ペルシア語・ペルシア文 学、イラン史学等 (受入)日本語・日本文学、日本史学等	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 情報及び学術資料の交換 4. 共同研究、合同シンポジウム及び講義などの 活動
エジプト	6	カイロ大学	2022/4/3	総長 1998/7/3 2005/6/27 2017/2/2	学長 1998/7/3 2005/7/11 2017/4/4	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
北米	7	イリノイ大学 アーバナ・シャンペーン校	2016/7/2	総長 2001/7/3 2006/9/13 2012/1/10	学長、理事会 2001/7/3 2006/10/4 2012/3/23	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
イタリア	8	ローマ大学「ラ・サピエンツァ」	2019/5/29	総長 1999/1/22 2004/5/31 2009/6/22 2014/12/17	総長 1999/4/30 2004/6/17 2009/7/7 2015/2/5	共通の関心を有する分野	1. 研究者 2. 研究プログラムへの参加 3. 学術情報及び学術刊行物の交換 4. 会議、セミナー、研究課題の講習会の開催
	9	パドヴァ大学	2023/1/6	総長 1993/1/7 1998/4/14 2003/3/14 2008/3/7 2014/1/24 2018/12/21	学長 1993/1/7 1998/4/24 2003/3/19 2003/4/14 2014/2/17 2019/1/20	相互に関心を持つ分野	1. 研究者 2. 学生、大学院生 3. 学術情報及び資料の交換 4. 大学教育に付随する業務分野での活動 5. 学術会議や研究会への参加
	10	フィレンツェ大学	2008/7/29	総長 1998/7/24 2003/11/26	学長 1998/7/30 2003/10/6	共通の関心を有する分野	1. 教官、研究者、大学院生 2. 学術情報及び学術刊行物の交換 3. セミナー・シンポジウムの共同開催
	11	ピサ高等師範学校	2021/9/20	総長 2002/5/30 2007/4/4 2016/7/6	校長 2002/6/10 2007/4/19 2016/9/21	それぞれが関心を持つ分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換
スイス	12	ジュネーブ大学	2022/7/1	総長 1997/7/2 2002/7/2 2007/6/6 2009/2/24 2012/11/5 2018/8/2	学長 1997/7/2 2002/7/22 2007/6/26 2009/3/20 2012/8/6 2018/9/24	両大学が関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
ドイツ	13	ホッフム-ルール大学	期限なし	総長 1969/5/23	総長 1969/7/14	日本学、シナ学、ドイツ文学・語学・ 哲学、歴史学、美術史学、人文地理学	1. 教授・助教授・専任講師及び研究助手 2. 稀少な文献または資料の印刷物
フランス	14	エコール・ノルマル・スーペリエール	2018/3/2	総長、人文科学研究科 科長 1993/2/23 1998/4/28 2003/3/24 2008/2/8、2/13 2015/2/9	校長、国際交流部長 1993/3/3 1998/5/7 2003/3/31 2008/3/4 2015/3/28	それぞれが関心を持つ分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 共同研究 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
	15	社会科学高等研究院	2023/7/17	総長 2018/6/27	研究院長 2018/7/18	それぞれが関心を持つ分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 共同研究 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
ポーランド	16	ワルシャワ大学	期限なし	総長 1978/4/1	総長 1978/5/10	(派遣)スラヴ学 (受入)日本学	1. 研究者、研究留学生 2. 学術資料等の交換

## B 部局間協定

国名等	#	大学名	有効期限	署名者及び署名年月日		協定の内容	
				本学	相手方の大学	専門分野	交流の対象
中国	1	北京大学歴史学系	2021/8/20	総合文化研究科長、 人文社会系研究科長 2006/7/21、8/3 2008/9/8、9/16 2011/7/1、7/5 2016/9/26,9/20	歴史学系主任 2006/8/21 2008/9/19 2011/7/20 2016/10/10	相互に関心のある分野	学生の交流
	2	北京大学中国語文学系	2024/6/15	人文社会系研究科長 総合文化研究科長 2019/5/29、6/3	言文学系主任 2019/6/16	文学	学生の交流
	3	北京大学哲学系宗教学系	2024/9/17	人文社会系研究科長 総合文化研究科長 2019/5/29、6/3	哲学系宗教学系主任 2019/9/18	哲学	学生の交流
	4	山東大学儒学高等研究院・ 韓国研究中心	2023/9/8	人文社会系研究科長・文学部長 2003/7/17 2008/11/25 2014/1/31 2019/8/30	研究院長・ 研究中心主任 2003/8/10、9/9 2008/11/25 2014/3/14 2019/9/26、9/27	双方に関心を持つ教育研究及びその他の 活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
	5	香港中文大学文学院	2021/1/31	人文社会系研究科長 2011/2/1 2016/1/23	文科大学長 2011/1/27 2016/2/2	相互に関心のある分野	1. 教員及び研究者 2. 学部学生、大学院生
台湾	6	中央研究院人文社会科学 研究センター地理情報科 学研究センター	2018/10/21	人文社会系研究科長 2013/10/11	研究中心主任、執行 長 2013/10/22、10/21	双方に関心を持つ学術研究及びその他の 活動分野	1. 研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
韓国	7	ソウル大学校人文大学	2020/8/9	人文社会系研究科長 2005/7/11 2012/6/4 2016/6/15	人文大学長 2005/8/10 2012/5/5 2016/6/23	相互に関心のある分野	学生の交流
	8	成均館大学校儒学・東洋 学部	2016/11/10	人文社会系研究科長・文学部長 2006/11/2 2012/1/17	学部長 2006/11/11 2012/1/27	それぞれに関心を持つ学術研究領域	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換
インド	9	デリー大学文学部、社会科 学部	2021/5/16	人文社会系研究科長 学際情報学部長 2016/5/17	デリー大学レジスター 2016/3/31	(派遣)インド哲学、仏教学、サンスクリット、インド史 (受入)日本仏教・中国仏教・インド仏教の思想 と歴史、インド哲学、サンスクリット、チベット研究、 日本研究	1. 大学院学生(協定書で学生の在籍研究科・ 学科を指定)
イギリス	10	セインズベリー 日本藝術研究所	2020/1/5	人文社会系研究科長・文学部長 2015/1/6	統括役所長 2015/1/6	双方に関心を持つ学術研究及びその他の 活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生
イタリア	11	ローマ大学「ラ・サピエンツァ」 東洋研究学部	2019/5/29	人文社会系研究科長 2009/10/23 2014/12/25	東洋研究学部長 2009/11/5 2015/1/27	(派遣)イタリア語、イタリア文学 (受入)日本語、日本文学 その他、双方の合意によって決められた分 野	1. 研究者 2. 研究プログラムへの参加 3. 研究会、セミナー、研究課題の講習会 4. 学術情報及び出版物の交換
セルビア	12	ベオグラード大学 文学部、哲学部	2018/7/1	総合文化研究科長・教養学部長、 人文社会系研究科長・文学部長 2007/11/16、11/22 2013/6/24、6/27	文学部長、哲学部長 2008/2/6、2/7 2013/7/17	双方に関心を持つ学術研究及びその他の 活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
ドイツ	13	ベルリン自由大学 歴史文化学部、大学院東 アジア研究科、シュレーゲ ル大学院文学研究科	2023/2/26	総合文化研究科長、 人文社会系研究科長 2013/2/13、2/19 2018/5/27、5/30	歴史文化学部長、文 学研究科長、東アジ ア研究科長 2013/2/27	相互に関心のある分野	学生の交流
	14	エバーハルト・カール大学 テュービンゲン	2022/5/4	人文社会系研究科長 2017/3/29	医学部長、文学部長 2017/5/3 2017/5/5	相互に関心のある分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
フランス	15	エコール・ノルマル・スーペリエール/ 文学・人文科学リヨン校	2022/10/18	人文社会系研究科長 1999/10/19 2002/9/25 2013/2/21 2017/11/24	校長 1999/10/13 2002/10/15 2013/3/20 2018/1/12	相互に関心のある分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 共同研究の実施 4. 学術情報及び資料の交換
	16	フランス極東学院	2016/3/12	人文社会系研究科長 2001/3/3 2006/3/13 2012/1/7	学院長 2001/3/13 2006/3/13 2012/2/9	それぞれが学術研究及び教育上関心を持 つ分野	1. 教官、研究者 2. 共同研究の実施 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換

### (3) 国際研究協力

#### A 海外渡航

平成30（2018）年度		令和元（2019）年度	
全体294件 （外国出張261件 海外研修35件）		全体209件 （外国出張179件 海外研修30件）	
教授	159件	教授	113件
特任教授	0件	特任教授	0件
准教授	87件	准教授	63件
特任准教授	5件	特任准教授	5件
助教	32件	助教	19件
特任助教	5件	特任助教	5件
講師	3件	講師	2件
外国人教師	3件	外国人教師	2件

#### B 外国人客員教員・研究員（客員）

〈外国人教員〉

フランス語フランス文学専修課程

シモン-オイカワ、マリアンヌ

(2006.10.16～2020.10.15)

南欧語南欧文学専修課程

アマート、ロレンツォ

(2011.4.18～2020.3.31)

ドイツ語ドイツ文学専修課程

ケプラー タサキ、シュテファン

(2012.10.1～2020.9.30)

附属次世代人文学開発センター

ミュラー、アルバート チャールズ

(2013.11.1～2019.3.31)

中国語中国文学

孫 軍悦 (2016.4.1～2020.3.31)

〈特任教員（旧外国人研究員（客員Ⅲ種））〉

韓国朝鮮文化研究専攻

李 亨眞 (2015.4.1～2018.3.31)

文化資源学専攻

ホームバーグ、ライアン

(2017.10.1～2019.9.30)

韓国朝鮮文化研究専攻

李 曉源 (2018.4.1～2021.3.31)

#### C 外国人教師

〔（ ）内は国籍〕

専修課程	平成26 (2014) 年度	平成27 (2015) 年度	平成28 (2016) 年度	平成29 (2017) 年度	平成30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度
英語英米文学	1名（英）					





若手研究(B)	17K13557	戸部 彰	900,000	270,000	1950年代西ドイツにおけるキリスト教民主同盟の社会政策—その理念と社会像
若手研究(B)	17K13563	夏木 大吾	1,100,000	330,000	日本列島北部における新石器型狩猟採集社会の形成過程
若手研究(B)	17K13339	渡辺 優	800,000	240,000	近世西欧神秘主義の信仰論をめぐる系譜学的・宗教哲学的研究
若手研究(B)	17K13469	渡野 知暁	700,000	210,000	コーパスを活用した係り結びの通時的研究の展開
若手研究	19K12977	柳沢 史明	1,200,000	360,000	真鍮製彫像の制作法と受容から再考する植民地期西アフリカ芸術
若手研究	19K13156	岩崎 加奈絵	300,000	90,000	ハワイ語における空間表現—動作の方向を示す機能語の研究
若手研究	19K13328	谷口 雄太	700,000	210,000	中世後期足利—門大名・守護の基礎的研究
若手研究	18K12339	前之園 望	800,000	240,000	アンドレ・ブルトンにおける「ポエム＝オブジェ」の詩学とその射程
若手研究	18K12349	吉川 希	300,000	90,000	近世ヨーロッパにおける教育と「インッパ集」展開に関する文献学的総合研究
若手研究	18K12349	石川 岳彦	800,000	240,000	中国遼寧地域の漢代墳墓研究—新出土資料と20世紀前半期発掘資料をもとに—
若手研究	18K13268	橋本 剛明	800,000	240,000	被害者のエージェンシー認知に基づく被害者理解フレームの検討
若手研究	18K13267	小倉 有紀子	900,000	270,000	「ただ乗り」の神経行動学的検討
若手研究	18K12524	海老根 量介	800,000	240,000	新出戦国竹簡に含まれる説話史料の歴史学的研究
若手研究	18K12366	長屋 尚典	900,000	270,000	多角的なデータから明らかになるタガログ語の文末助詞の機能と音調
研究活動スタート支援	19K20766	平岡 益	1,100,000	330,000	フランス現象学を背景とした後期レヴィナスの人間観の歴史的・体系的な研究
研究活動スタート支援	19K22996	井上 貴恵	800,000	240,000	中世期スーフイズム思想史理解への試み—イラン・スーフイズムに着目して—
研究活動スタート支援	19K22998	崔 境眞	900,000	270,000	チベット仏教カダム派の思想研究に向けた基礎資料の構築
研究活動スタート支援	19K23380	弘光 健太郎	700,000	210,000	自己意識の障害の定量化および脳内ネットワークの解明

## (2) 奨学寄附金

平成30(2018)年度

受入れ教員	寄附者名	寄附金額(円)	寄附目的
大宮 勲一郎	松浦 純	3,606,576	マルティン・ルター全集(ワイマール版)オンライン・データベース(Luthers Werke im WWW)購入(利用権取得)のため
六反田 豊	公益財団法人住友財団	800,000	「東京大学コア・コリキュラム事業」に対する助成についての機関経理のため
小島 毅	公益財団法人 摘水軒記念文化振興財団	50,000	柏市における伝統文化の普及振興のための援助
下田 正弘	一般財団法人人文情報学研究所	4,500,000	人文情報学を踏まえた人文社会学研究のため
吉澤 誠一郎	公益財団法人 三菱財団	1,200,000	公益財団法人三菱財団 平成30年度人文科学研究助成金「中国ナショナリズム運動の地域的・国際的背景:日中関係史の視点から」の機関経理のため
小林 真理	公益財団法人 三菱財団	1,700,000	公益財団法人三菱財団 平成30年度人文科学研究助成金「ドイツにおける過去の芸術文化政策の記憶の継承と現代の芸術文化政策への影響について」の機関経理のため
高岸 輝	公益財団法人 三菱財団	2,900,000	公益財団法人三菱財団 平成30年度人文科学研究助成金「戦国時代の絵巻制作にみる都鄙間交流と文化の全国波及」の機関経理のため
出口 剛司	クリタ水環境科学振興財団	700,000	クリタ水環境科学振興財団国内研究助成「水に関する文化、教育、歴史、政策、制度などの研究」の機関経理のため
養輪 顕量	公益財団法人 克念社	50,000	文学部インド哲学仏教学研究室の「仏教、特に日本仏教の研究」に対する助成
高橋 晃一	公益財団法人 仏教伝道協会	12,500,000	人文情報学を視野に入れた大蔵経の翻訳に関する研究
高岸 輝	公益財団法人 出光文化福祉財団	2,800,000	出版助成金(高岸輝著『中世やまと絵史論』、吉川弘文館、2019年度刊行予定)の機関経理のため
高木 和子	丸善雄松堂株式会社	15,552	国文学研究室所蔵和漢古典籍の研究のため

令和元(2019)年度

受入れ教員	寄附者名	寄附金額(円)	寄附目的
高橋 知之	公益財団法人 サントリー文化財団	950,000	学術研究助成(『反省』と『偶然』の問題系における日露近代文学・思想の比較)の機関経理のため
柳沢 史明	公益財団法人 稲盛財団	1,000,000	学術研究助成(芸術史と宣教学史を介した「文明化の使命」の解明:カトリック宣教師によるAOF(フランス領西アフリカ)の造形文化表象に関する研究)の機関経理のため
井上 貴恵	公益財団法人 上廣倫理財団	600,000	学術研究助成(イスラームにおける心の平静の探求—「善く生きる」ための学問としてのスーフイズムの観点から—)の機関経理のため
六反田 豊	公益財団法人住友財団	800,000	「東京大学コア・コリキュラム事業」に対する助成についての機関経理のため
寺嶋 哲生	公益財団法人 摘水軒記念文化振興財団	50,000	柏市における伝統文化の普及振興のための援助
下田 正弘	一般財団法人人文情報学研究所	4,500,000	人文情報学を踏まえた人文社会学研究のため
八谷 舞	東海ジェンダー研究所	300,000	19~20世紀転換期アイルランドにおける女性と図書館
八谷 舞	松下幸之助記念志財団	500,000	19~20世紀転換期アイルランドにおける女性と図書館
養輪 顕量	一般財団法人 仏教学術振興会	700,000	「大蔵経テキストの構造の分析と記述手法に関する研究」に対する寄附
養輪 顕量	公益財団法人 克念社	500,000	文学部インド哲学仏教学研究室の「仏教、特に日本仏教の研究」に対する助成
高木 和子	丸善雄松堂書店株式会社	42,120	国文学研究室所蔵和漢古典籍の研究

## 5. 教育・研究支援組織

### (1) 図書室

#### ■蔵書数（令和2年3月末現在）

図書	1,156,991 冊	（うち洋書	593,609 冊）
年間受入図書冊数	11,005 冊	（うち洋書	5,097 冊）（令和元年度）
所蔵雑誌種数	14,117 種	（うち洋雑誌	4,668 種）
年間受入雑誌種数	1,177 種	（うち洋雑誌	605 種）（令和元年度）

#### ■図書資料の蔵置

現在、文学部の蔵書は図書委員会の管理・運営の下で、以下の書庫や研究室に分散配架しているが、いずれも書架スペースの狭隘化問題を抱えている。この問題を解決するためには、図書資料の配置について、根本的に見直す必要がある。

##### 1) 法文2号館図書室

おもに雑誌のバックナンバー、参考図書、本研究科授与の新制（1991年度～）博士論文（課程博士）、マイクロ資料、本研究科・学部の教員著作などを配架。

##### 2) 文学部3号館図書室

研究室図書の一部と叢書全集・史資料を配架。

##### 3) 貴重書庫（法文2号館書庫内）

インド哲学仏教学・宗教学宗教学・美学芸術学・日本史学・西洋史学・東洋史学・言語学・国語学・国文学・心理学の各研究室の貴重書を配架。各研究室等でも相当数の貴重書を保存。

平成15年度に新貴重書庫・準貴重書庫を新設し、スペース不足は解消された。また、保存環境についても、定期清掃の実施や温湿度管理の徹底、防虫剤の定期交換等により、大幅に改善されつつある。

##### 4) 各研究室

研究室の図書資料は、法文1号館・法文2号館・文学部3号館・総合研究棟（弥生地区）・赤門総合研究棟の各研究室に配架。

##### 5) 法文1号館書庫

各研究室の稀用図書、考古学関係の発掘調査書等を配架。

##### 6) マイクロ資料室（法文1号館書庫内）

中国思想文化学・インド哲学仏教学・宗教学宗教学・日本史学・東洋史学・西洋史学・国語学・国文学・中国語中国文学・インド語インド文学・スラヴ語スラヴ文学の各研究室及び次世代人文学開発センターのマイクロ資料を配架。

#### ■サービス体制

##### 1) 文学部3号館図書室

総合受付サービス窓口で、貸出・文献複写・現物貸借依頼受付、他大学・機関への紹介状の発行、各種申請の受付、及びレファレンスサービス等を行っている。

開室時間は、月曜～金曜の午前9時～午後9時（短縮期間中は午前9時～午後5時）、土曜の午前10時～午後6時（短縮期間中は閉室）。OPAC用パソコン4台、デジタル資料閲覧用パソコン1台、コピー機2台を設置。

##### 2) 法文2号館図書室

主として、法文2号館図書室に配架された雑誌・博士論文・マイクロ資料の閲覧・複写・貸出サービスを行っている。

開室時間は、月曜～金曜の午前9時～午後5時30分（短縮期間中は午前9時～午後5時）。OPAC用パソコン3台、コピー機2台、マイクロリーダープリンタ2台を設置。個人閲覧席11席を整備したキャレルコーナーがある。

ここに本研究科・学部の図書業務（資料の受入・登録・製本・目録）を行う事務室がある。

#### ■最近の利用状況

	平成30年度	令和元年度
・入館者数	27,631 人	26,629 人
・貸出冊数	19,379 冊	20,195 冊
・文献複写	120,437 枚	110,980 枚
・参考業務	5,022 件	4,019 件
・相互協力	2,702 件	2,286 件

## (2) 漢籍コーナー

漢籍コーナーは、文学部の各研究室が所蔵する「漢籍」（中国前近代資料）を集中配架・共同利用するために、1967（昭和42）年法文2号館2階に設置された（利用開始は1970年）。2004年2月に赤門総合研究棟6階に移転し、現在に至る。中国思想文化学・中国語中国文学・東洋史学・韓国朝鮮文化・インド哲学仏教学・言語学の6研究室が所有・購入する中国前近代資料（一部日本・朝鮮関係資料などを含む）、いわゆる漢籍資料を中心として、20世紀前半頃までの中国関係資料も含めると総数10万冊を超える資料を所蔵している。また、小倉文庫（朝鮮語資料・朝鮮漢籍）・瀧田文庫（日本禅籍）といったコレクションもあり、蔵書の中には孤本・稀覯本など貴重な資料も多く含まれている。

漢籍を伝統的な四部分類法で配架した「書庫」、貴重書を保管する「貴重書庫」のほか、参考図書等を備えた「閲覧室」があり、中国学を専攻する学生・教職員に研究・教育・学習の場として、文学部のみならず他学部や他部局、学外の学生・研究者にも利用されている。とりわけ近年、ごく一部の資料を除くほぼ全ての所蔵図書がOPACに登録されたため、学内他部局や学外からの利用者が増加している。

運営・管理は中国思想文化学・中国語中国文学・東洋史学・韓国朝鮮文化・インド哲学仏教学・言語学の6研究室の代表教員などで構成される「漢籍コーナー運営委員会」が行い、業務全般は教務補佐員が担当している。

2018～2019年度も、関連研究室の購入図書や科研費購入図書を中心として年1,000冊程度のペースで蔵書を受け入れた。既存の蔵書についても文学部の予算補助を受け、損傷の激しい図書の補修を継続しており、貴重書である明清版の修繕を進めることができた。また2015年度以降、韓国高麗大学との協定のもと、貴重な朝鮮本コレクションである小倉文庫のデジタル化事業を進めており、2018年には100点余りを対象とした補充調査と撮影が行われた。この成果とそれ以前に行われた東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所との連携により撮影された画像を合わせて、東京大学デジタルアーカイブズ構築事業の一環として、2019年8月から東京大学学術資産等アーカイブズ共用サーバにて公開した（<https://iif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/ogura/page/home>）。小倉文庫は国内のみならず、海外の研究者からの関心が高い資料であり、今後ますます多くの研究者によって研究が進められることが期待される。

これほどの量と質を備えた漢籍専門の図書室を学部内に持つのは全国でも稀であり、明治以来の中国学の伝統を継承しつつアジア研究に力を入れてきた本学部ならではの施設である。今後も引き続き文学部の研究教育拠点として漢籍コーナーの整備・充実に努めていかなければならない。近年は出版数の増加や電子資料の普及など「漢籍」をとりまく状況も変化しており、漢籍コーナーも外部利用者の増加や、デジタルデータの扱いなどに対する対応が求められている。そのため、漢籍を資産として管理・保全しながらも、資源として多様な学問分野の研究・教育に活用していくという、二つの責務をバランスよく果たしていくことが今後の課題となっている。

## (3) 国際交流室

2019年度、人文社会系研究科・文学部における外国人留学生数は165人であり、前掲の「国又は地域別外国人留学生数」に示したように、過去5年間、総数は160人前後で推移している。

2019年度における国・地域別では、中国が83人と最も多く、次いで韓国49人となっている。中国が全体の約50%、韓国が約30%を占めるなど、アジア諸国が150人に上っていることから、外国人留学生のおよそ9割をアジア出身者が占めていることが明らかとなった。

一方、外国人研究員は、2019年度は31人を受け入れている。前掲の「外国人研究員（国籍別人数）」によれば、国・地域別では、中国が13人で最多となっている。

国際交流室は、これら約200人の外国人留学生及び外国人研究員の受け入れ、支援を行っており、日本語教育担当教授1名、同非常勤講師3名、留学生教育担当講師1名、事務補佐員2名により構成されている。

近年、人文社会系研究科・文学部の留学生数は、大きく増加していないが、国籍では中国出身者の割合が以前より高くなっており、学部から直接入学する者も見られるようになってきた。そのため、留学生、とりわけ研究生に対しては、個々に対する細やかなオリエンテーションを行うようにしている。また、留学生を支援するチューターへの研修も行い、チューターの役割の明確化を行うとともに、国際交流室とチューターとの関係強化を図り、さまざまな課題を迅速に感知し、実質的な支援ができる体制づくりに努めた。

また、留学生の受け入れについて、研究室間の情報交換の場がないため、2017年度に引き続き、2018年度は「留学生受け入れ教員懇談会」を2019年3月14日に実施した。2019年度は、2020年3月にも同懇談会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症のために中止となってしまった。

### [国際交流室日本語教室の活動]

日本語教室では、日本語科目の提供のほかに、日本に関する知識を提供する特別講座や、交流の場の提供などを、全学の留学生に向けて行っている。2018年度の日本語科目の開講数は、各セメスター日本語教室科目10コマと大学院科目2コマ、集中講座年間約24コマであったが、2019年度は、担当教員の都合で、セメスター中の科目1科目を集中講座



で行ったため Semester 科目が 9 コマで、集中講座が 59 コマとなった。年度ごとの受講者数（異なり数）は、2018 年度の S Semester 36 人、A Semester は 50 人、夏季集中講座 30 人、春季集中講座 33 人、特別講座は 197 人であった。2019 年度の S Semester は 62 人、A Semester は 50 人、夏季集中講座は 47 人、春季集中講座は 41 人、特別講座は 136 人であった。いずれの科目、講座も他部局からの参加が増えてきており、他部局の留学生の占める割合は 2018 年度 42%、2019 年度 49% であった。徐々に日本語教室における教育の存在が全学に伝わってきていることを示している。

2018 年度は、国際支援課からの補助で、図書管理システムを購入し、いつでも日本語教室オフィスにある図書を貸し出しできる体制を整えた。2019 年度は、特別講座の拡大や、日本人と留学生交流のための充実化を図ったが、その一部は、国際支援課からの補助を受けている。なお、特別講座や交流の詳細については第 1 部 3. 国際交流(1)A に記述している。

教授 **向井 留美子** MUKAI, Rumiko

29 次世代人文学開発センター《国際人文学部門》 参照

講師 **三宅 真由美** MIYAKE, Mayumi

### 1. 略歴

- 1995 年 3 月 南山大学法学部法律学科卒業
- 1997 年 3 月 名古屋大学大学院国際開発研究科国際開発専攻博士前期課程修了
- 2000 年 9 月 朝日大学教育職員（～2001 年 3 月）
- 2001 年 4 月 朝日大学留学生別科専任講師（～2010 年 3 月）
- 2010 年 4 月 朝日大学留学生別科日本語研修課程専任講師（～2012 年 9 月）
- 2012 年 10 月 信州大学経済学部講師（～2016 年 3 月）
- 2016 年 4 月 東京大学大学院人文社会系研究科講師（～現在に至る）

### 2. 主な教育活動

#### (1) 留学生支援

本研究科・本学部への外国人留学生の受け入れ、本研究科・本学部在籍する外国人留学生に対する修学面及び生活面での支援等。

#### (2) 外国人研究員支援

大学院外国人研究員の受け入れ及び支援等。

#### (3) 主要学内委員

国際交流委員会オブザーバー

### 3. 主な研究活動

#### (1) 学会発表

国内、三宅真由美、『『一時滞在者』としての留学生から『高度人材』へーグローバル・スクールハウス構想を契機とするシンガポールの留学生政策における『留学生』の位置づけの変容ー』、留学生教育学会 第 23 回年次大会、広島大学、2018.9.8

国内、三宅真由美、「シンガポールにおける経済開発政策としての留学生受入れモデルに関する考察」、留学生教育学会 第 24 回年次大会、2019.8.24

#### (4) 教育研究情報管理室

教育研究情報管理室（以下、情報管理室と呼ぶ）は、本研究科・本学部をとりまく以下の状況を踏まえ、2009 年度に設置された（情報管理室の設置に伴い、視聴覚教育センターと情報メディア室はその分室となった）。

すなわち、大学法人化に伴い中期目標・中期計画書や、その達成度等の評価判断の目安とされる現況調査表・教育研究実績報告書を定期的に作成し提出することが義務づけられた一方、社会からは教育研究に関わる各種情報を公開し、また教育研究内容の広報活動を推進することが強く要請されている。

その要請に応えるために、情報管理室は、特に教育研究に関わる情報・資料等を部局として集積し、かつ電子データとして一括管理し、上記のような報告書・資料の作成作業の効率化を図るとともに、機密性の高い情報を管理する上で高度のセキュリティ対策を構築していくように努力している。

2018～2019年度は、例年通り、授業改善アンケートの実施、博士課程修了者等進路先調査、教職就職者調査、学芸員就職者調査、文学部HPに関する講習会（広報委員会との共催）、標準実績データベース入力講習会などを行い、2018年度には『東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 教育・研究年報14（2016～2017）』を編集、刊行した。

2019年度末には、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大を受け、情報管理室でも分室である情報メディア室が中心になって授業・会議のオンライン実施のための講習会開催、ネットワーク整備等の対応をおこなった。また、同じく分室である視聴覚教育センターでも、オンライン講習会開催での視聴覚機器面のサポートや、2020年度からのオンライン授業実施に向けた準備に取りくんだ。

#### 構成員

##### 教育研究情報管理室

室長 佐藤宏之（考古学研究室教授）

講師 石川洋

事務補佐員 松原道子

##### A 視聴覚教育センター

講師 石川洋

特任専門職員 菅家健一

特任専門職員 木村京子

事務補佐員 小国浩一

##### B 情報メディア室

講師 西川賀樹

助教 安藤翔伍

事務補佐員 堂前香織

講師 **石川 洋** ISHIKAWA, Hiroshi

## 1. 略歴

1986年3月	東京大学文学部東洋史学専修課程卒業
1986年4月	東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻修士課程入学
1989年3月	東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻修士課程修了
1989年4月	東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻博士課程進学
1994年3月	東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻博士課程単位取得のうえ退学
1994年4月	東京大学文学部助手
1995年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助手（漢籍コーナー担当）
2010年4月	東京大学大学院人文社会系研究科講師（教育研究情報管理室・視聴覚教育センター担当）

## 2. 主な社会活動

### (1) 他機関での講義等

非常勤講師、関東学院大学法学部、「外国史1・2」、2018.4～2019.3

### (2) 学会

国内、中国社会文化学会、一般会員、2018.4～2019.3

国内、東方学会、一般会員、2018.4～2019.3

国内、史学会、一般会員、2018.4～2019.3

## A 視聴覚教育センター

文学部視聴覚教育センター（以下、「センター」）は、1964年、図書館の「総合化」の一環として、語学教育と非文字資料の収集・利用を行うことのできる施設の設置と運営を総合図書館から委託されたのをうけ、文学部が総合図書館3階に設置した「語学ラボラトリー」を前身とする。1984年、語学ラボラトリーは、語学教育だけではなく、視聴覚機器や視聴覚資料を活用した教育と研究全般を支援、推進する「視聴覚教育センター」に改められ、1986年には総合図書館5階に移転した。以来、総合図書館において、自習室・教室・編集室などを備えた施設としてのセンターを管理・運営し、視聴覚資料の作成・収集と利用提供などの全学向け業務を行うとともに、本研究科・学部の教育・研究活動に対する視聴覚面からの支援業務（教室等の視聴覚設備の整備、授業や催事での視聴覚面でのサポート、講演やシンポジウム等の録画とアーカイブ化など）を行ってきた。

しかし、2014年度から「新図書館計画」に基づく総合図書館の大規模改修が開始され、2016年11月をもってセンターはいったん閉鎖され、2017年1月に事務室のみ法文2号館2328室に仮移転した。この時点で、センターのある5階部分は別用途で総合図書館が使用することと、センターが持っていた機能を改修後の新図書館においても維持することが本研究科・学部と総合図書館とで合意されており、その後、センターが新図書館内に移転し業務を行うことを第一の選択肢として協議が続けられたが、2019年度になって、新図書館における視聴覚関係の機能・業務は全て総合図書館が担当することが決定し、それに伴い、センターは総合図書館を離れ、本研究科・学部へ正式移転することになった。

現在、センターは、仮移転先であった法文2号館2328室を当面の事務室として業務をおこなっている。最終的な移転先については、センターの今後のあり方や業務とあわせて検討中である。

なお、2009年4月よりセンターは組織上、教育研究情報管理室の分室となっている。センター運営には教員で構成される視聴覚教育センター運営委員会があたり、業務はセンター職員3名と教育研究情報管理室講師1名が担当している。以下に、2018～2019年度の業務状況について述べる。

### (1) 視聴覚資料の収集と利用

センターは開設以来今日まで10,000点以上の音声・映像資料を収集、蓄積し、語学教材を含むこれらの資料を、総合図書館5階のセンター（以下、「旧センター」）では、視聴設備を備えたセンター自習室において全学の学生・教職員の利用に供してきたが、2016年の旧センター閉鎖以降、所蔵資料の利用を停止している。視聴設備や資料配架場所が確保できていないということも理由の一つであるが、それ以上に大きいのは著作権の問題である。近年、研究・教育目的の利用においても著作権法の遵守が強く求められている。センター所蔵の視聴覚資料は長い期間に収集してきたものであり、現在の規定では利用が認められないものや限定的な利用しかできないものなどが少なからず含まれている。貴重な資料も多くあり、教員・学生からも利用再開が望まれており、現在の著作権法の規定をふまえた新たな利用方法（規則）を検討しているところである。

### (2) 視聴覚設備・機器に関する業務

センターは本研究科・学部の教室の視聴覚設備の整備・保管理、視聴覚設備・機器に関わるサポート（利用者への技術指導、機器の故障への対応など）を担当している。

2018年度には、法文2号館2番大教室のプロジェクター更新、法文1号館115番教室と212番教室の視聴覚設備の改修（HDMI対応）、216、316番教室のスクリーンの更新などを行った。また、法文2号館1番大教室の同時通訳設備の一部機器入れ替も行った。2019年度には、電波法関連法令無線設備規則の改正により2022年12月1日から使用できなくなる1番大教室と2番大教室のワイヤレスマイクシステムの更新、1番大教室のスピーカー・音響機器の更新、312番教室の視聴覚設備改修（HDMI対応とプロジェクター更新）、115、212番教室のプロジェクター更新、217、210、311、315、317、310番教室のスクリーンの更新などを行った。また、大学院生用として使われる赤門総合研究棟第7、第8演習室のプロジェクターとスクリーンも更新した。

本研究科・学部には3つの大教室を含め約30室の教室があり、その全てにスクリーン、プロジェクター、大型液晶ディスプレイなどの映像機器とスピーカー等の基本的な音響機器が設置されている。授業や学会等での視聴覚機器・PCの使用が当たり前のことになり、加えて機器・PCの変化がめまぐるしいことから、教員・学生から視聴覚設備に対して様々な要望が出されている。また、2020年3月以降コロナウイルス感染症予防のため授業・会議が急遽オンラインで実施されるようになり、これをきっかけに大学の教育のあり方が大きく変わっていくことも考えられる。オンライン化への対応を含め、視聴覚設備の整備は、今まで以上に本研究科・学部全体の教育研究体制を見渡しながらか、教員や関係部署と歩調を合わせて、計画的、効率的に進めていく必要がある。

視聴覚設備・機器の利用サポートもセンターが行っているが、授業はもちろんのこと、学会、シンポジウムなどの催事での視聴覚機器使用に関する相談やサポート依頼も増加している。今後も増加が予想されるサポート業務に限られた人員でどう対応していくかも課題である。

### (3) 催事等の撮影

センターでは、本研究科・学部で行われるさまざまな講演やシンポジウム、退職教授の最終講義等の録画を行っており、2018～2019年度も40件あまりの催事を録画した。ただ、残念なことに2019年度末に予定されていた3名の教員の最終講義は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止になってしまった。撮影したビデオの一部は東大TVで公開されているが、公開や閲覧提供には著作権や肖像権などの問題があり、貴重な資料であるにもかかわらず十分に活用できていないのが現状である。また、またこれまで蓄積してきた映像資料については整理が十分ではないことから、現在、撮影データを含むリスト作成などを進めている。また、旧メディアから現行メディアへの変換が必要な資料が大量にあるなど、アーカイブ化に向けての課題も多い。

### (4) 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、2020年2月以降本研究科・学部において予定されていた最終講義、シンポジウム、学会などがほとんど中止となった。また、4月以降授業・会議などはすべてオンラインで行うことが決まった。センターでも、こうした状況に対応できるよう、必要機器の準備や情報収集などを進めているところである。

## B 情報メディア室

MAIL : [l\\_cnc@lu-tokyo.ac.jp](mailto:l_cnc@lu-tokyo.ac.jp)

WEB : <https://www.lu-tokyo.ac.jp/MediaCenter/>

情報メディア室は、文学部の計算機システムおよびLANの構築・運用・管理を行うことを目的として、1996年に設立された。

### 1. 情報システムの構築・運用・管理

情報メディア室は、文学部の教育・研究用計算機システム及びLANの構築・運用・管理を行っている。また、文学部CERTとして活動しており、各種セキュリティ対策情報の学部内への周知や情報セキュリティインシデントへの対応を行っている。その他、事務部や広報委員会と連携した情報システムによる広報活動の支援、文学部の各教員やプロジェクトの教育研究活動の支援等も行っている。

#### 教育・研究用計算機システムの運用

教育・研究用計算機システムとして様々なサーバを管理・運用し、文学部・大学院人文社会系研究科構成員に対して、電子メール、ホームページ（以下、HP）をはじめとする一般的なアカウントサービスを提供している。

#### 1) 文学部 Web サーバの運用

文学部公式HPのWebサーバの運用を行っている。文学部公式HPでは、事務部や広報委員会、各研究室等からの発信情報があり、これらに対して共通の情報発信システムを提供している。また、研究室・個人HPを公開するためのWebサーバについても運用しており、ホスティングサービスを提供している。

#### 2) 文学部メールサーバの運用

メールサーバの運用を行い、文学部アドレスのメールやメーリングリストを提供している。また、標的型攻撃メールが近年増加していることもあり、セキュリティ対策として迷惑メールフィルタを導入・運用している。この迷惑メールフィルタによってメールのスキャンや発信元の確認を行い、ユーザが安全にメールサービスを利用できるようにマルウェア感染やフィッシングへの対策を行っている。

#### 3) 文学部ドメインの管理

DNSサーバを運用し、文学部ドメインlu-tokyo.ac.jpの管理・割り当てを行っている。また、文学部LANにおけるインターネットアクセスのために、DNSキャッシュサーバを運用している。

#### 4) 文学部内データベースの運用

各教員の教育実績や研究業績をまとめ、点検評価に用いるためのデータベースシステムの運用管理を行っている。

#### 5) グループウェアの運用

事務部からの情報発信や各研究室・部署で情報共有を行うためにグループウェアの運用管理を行っている。

#### 6) 認証サーバの運用

無線LANや各種システムの認証を行うために、アカウント管理を行う認証サーバを運用している。

## LANの運用

文学部の構成員が使用する主要な建物である、法文1号館、法文2号館、文学部3号館、弥生総合研究棟、文学部アネックス、赤門総合研究棟、国際学術総合研究棟における文学部LANの基幹部分（研究室や教員居室の外部）の構築・運用・管理を行っている。

### 1) ネットワークの管理・運用

物理的なネットワーク配線、通信を中継するルータやスイッチ等の機器を運用管理し、研究室からキャンパスLANであるUTNETまでの通信経路における良好な通信サービス提供のための活動を行っている。サーバ等と同様に老朽化による故障を防ぐために定期的に機器の更新を行っている。また、機器の動作に異常がないか監視するシステムを導入しており、故障が発生した場合は常備している予備機への交換作業を行うことで、長時間にわたってネットワークが不通となることがないように対策を行っている。

有線LANを全部屋に配備している。また、無線LANについても文学部全館に配備しており、文学部・UTokyo WiFi・eduroamの3つのアカウントで使用することができる。

### 2) IPアドレスの管理

利用者へのIPアドレスの割り当てを管理している。学外に公開が必要な機器のみグローバルIPアドレスの割り当てを行い、それ以外はプライベートIPアドレスによる運用を行っている。

### 3) SSL-VPN サービス

自宅等の学外から文学部LANに安全に接続できるSSL-VPNサービスを提供している。

講師 **西川 賀樹** NISHIKAWA, Yoshiki

## 1. 略歴

2005年3月	横浜国立大学工学部電子情報工学科卒業
2005年4月	東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻修士課程入学
2007年3月	東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻修士課程修了
2007年4月	東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻博士課程入学
2010年3月	東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻博士課程単位取得退学
2010年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教（2015年3月まで）
2012年7月	理化学研究所計算科学研究機構客員研究員（2017年3月まで）
2015年4月	東京大学大学院人文社会系研究科特任助教（2017年3月まで）
2017年4月	東京大学大学院人文社会系研究科講師

## 2. 主な研究領域

研究領域 オペレーティングシステム・システムソフトウェア

## 2. 助教の活動

助教 安藤 翔伍 ANDO, Shogo

在職期間 2017年4月～2020年3月

研究領域 コンピュータネットワーク

主要業績

(国内研究会)

安藤翔伍、山本周、中尾彰宏、“5Gによるリアルタイムドローン空撮4K映像配信の検討”、電子情報通信学会ネットワークシステム研究会 信学技報、vol. 118, no. 392, NS2018-181, pp.19-24, 2019.1.17

中尾彰宏、桐葉佳明、安藤翔伍、山本周、松永彰、中尾允彦、“5Gドローン4K空撮リアルタイム映像伝送実証実験”、2018年電子情報通信学会ソサエティ大会、B-6-9、2018.9.11

## 6. 情報化と広報

### (1) IT化

人文社会系研究科・文学部の情報化（IT化）は過去2年間着実に進歩した。人文社会系研究科・文学部HPでは、独自コンテンツの追加を行う等、さらなる充実を図っている。また、引き続きCMS（Content Management System）による管理を行っており、毎年度にCMSを用いた編集方法の講習会を開催して事務部・研究室等からの情報発信を強化している。研究室からのイベント情報等も盛んに発信されるようになってきている。

また、サーバやネットワーク機器等の更新も定期的に行っており、より高速で安定したITインフラストラクチャの構築を進めている。特に無線LANについては、これまで三友館や会議室等といった特定の場所でしか使用することができなかったが、全館にアクセスポイントを設置して文学部の建物全域での使用が可能となった。既存の文学部アカウントと連携した新たな無線LANの認証システムの導入も行っている。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対策としてオンライン授業・会議等を実施するために、教職員へのWeb会議ツールを用いた授業・会議等に関する情報提供、学外からの安全なシステムの利用や通信量の増大に対応するためのネットワーク整備を行っている。

### (2) 広報活動

人文社会系研究科・文学部の広報活動は広報委員会が中心になって行っている。主な活動は、1) 多言語化されたホームページによる情報発信、2) 文学部概要パンフレットの作成、3) 高校生向けのオープンキャンパスの企画・実行、4) ホームカミングデイの企画・実行、5) 広報用カレンダーの作成、6) 全学広報との連携などであり、多岐にわたっている。

このような広報活動により、オープンキャンパスやホームカミングデイでは多くの方に参加いただいている。また、2020年には、好評を博した2019年度ホームカミングデイの内容をもとにした新書『ことばの危機—大学入試改革・教育政策を問う—』（集英社）が発売された。

さらに刊行物の発行やホームページの充実などにより、人文社会系研究科・文学部の活動が在校生、卒業生、一般の方々を問わず、広くご理解頂けるように努力を続けている。

#### <2018・2019年度オープンキャンパス企画>

##### 2018年度

参加者数：模擬講義 830名、研究室見学ツアー110名、教員著書展示 770名、個別相談コーナー120名

総計 1830名（いずれも概数）

企画：1. 模擬講義 高橋 典幸（日本史学） 「鎌倉幕府の成立 —頼朝の決断—」  
柳原 孝敦（現代文芸論） 「チカーノの悲しみと怒りに耳を澄ませて」  
大西 克也（中国語中国文学） 「秦の始皇帝と現代日本の漢字」

##### 2. 研究室見学ツアー

- ①哲学研究室、考古学研究室
- ②考古学研究室、哲学学研究室
- ③英語英米文学研究室、心理学研究室
- ④心理学研究室、英語英米文学研究室

##### 3. 教員著書展示、個別相談コーナー

##### 2019年度

参加者数：模擬講義 860名、研究室見学ツアー110名、教員著書展示 440名、個別相談コーナー100名

総計 1510名（いずれも概数）

企画：1. 模擬講義 吉澤 誠一郎（東洋史学） 「清末中国人の見た明治日本」  
楯岡 求美（スラヴ語スラヴ文学） 「物語の形：聞こえるものと見えるもの」  
秋山 聡（美術史学） 「図像学入門 —美術作品の「読み方」」

##### 2. 研究室見学ツアー

- ①日本史学研究室、現代文芸論研究室
- ②現代文芸論研究室、日本史研究室
- ③倫理学研究室、社会学研究室
- ④社会学研究室、倫理学研究室

##### 3. 教員著書展示、個別相談コーナー

<2018・2019年度ホームカミングデイ企画>

2018年度

参加者数：約100名

企画：「人文学の最前線」

1. 学部長挨拶 佐藤 健二 文学部長
2. パネルディスカッション

司会：野崎 歓 (フランス語フランス文学)  
登壇者：西村 明 (文学部准教授・宗教学)  
高岸 輝 (文学部准教授・日本美術史)  
阿部 公彦 (文学部教授・英米文学)  
芳賀 京子 (文学部准教授・西洋美術史)

2019年度

参加者数：約210名

企画：「ことばの危機—入試改革・教育政策を問う—」

司会：安藤 宏 (文学部教授・日本文学(国文学))  
登壇者：阿部 公彦 (文学部教授・英語英米文学)  
沼野 充義 (文学部教授・現代文芸論)  
納富 信留 (文学部教授・哲学)  
大西 克也 (文学部長・中国語中国文学)

## 7. 公開講座

### (1) 布施学術基金公開講演会

布施学術基金公開講演会「東洋の文化」第26回、第27回

布施学術基金公開講演会は、故布施郁三博士から人文社会系研究科・文学部に寄付された布施学術基金による、もともと中心となる事業の一つであり、「東洋の文化」という共通テーマで毎年1回開催されている。

第26回は平成30年5月24日午後5時から、本学名誉教授・末木文美士先生(インド哲学仏教学)をお招きし「文献学・思想史・哲学」と題して、一番大教室において講演を頂戴した。末木先生は、日本中世の仏教写本の調査研究から、いかにして思想史を構築し、さらに現代の問題としての哲学の再編に向かうかということを中心に、近現代の仏教研究の中心である文献学から、思想としての仏教へと昇華させていく道筋を、模式的にわかりやすく解説された。

第27回は令和元年5月23日午後5時から本学名誉教授・竹内整一先生(倫理学)をお招きし、『『たましい』論の現在—日本人の死生観を問う—』と題して、同じく一番大教室において講演を頂戴した。竹内先生は、和歌や古典の魂に関する表現を概観したうえで、川端康成や高村光太郎ら、近現代の作家・芸術家の文章の中にあられる魂に関する考え方を紹介し、死後に個としての存在から解放され、自然の中に融和したような魂のあり方を感じると、日本人の死生観を解説された。

### (2) 東京大学コリア・コロキウム

東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究専攻においては、教育研究活動を行うとともに、社会に対して当該地域に関する様々な情報を発信したいという希望のもと、2003年度から標記のコロキウムを開催している。本コロキウムは、激動を続ける韓国朝鮮およびこの地域をとりまく北東アジア情勢に対応し、あらたな提案を行ってゆくためには、同地域に関する理解を一層深めることが要請されるとの考えから企画されたものである。このような観点から、当コロキウムでは韓国朝鮮および周辺地域に関わる様々な分野の専門家、外交官、官僚、政治家、研究者、社会活動家などを東京大学に招き、忌憚りの無い意見表明をお願いし、質疑応答を行うことで理解を一層深める機会を社会に向けて創出してゆくことを目的としている。講演は年に数回行っている。講演の内容については、『東京大学コリア・コロキウム講演記録』として年度ごとに発行している。なお、本コロキウムは公益財団法人住友財団の助成事業として運営されている。2018～2019年度の開催の実績は以下のとおりである。

2018年度

第1回 2018年7月27日(金) 18時30分～20時

講演者：東 潮 氏(徳島大学名誉教授)

講演題目：加耶と「任那」—『日本上代史の一研究』と『任那興亡史』

- 第2回 2018年10月11日(木) 18時30分～20時  
 講演者 : 小林 和美 氏 (大阪教育大学教授)  
 講演題目 : 早期留学—グローバル化のなかで揺れる韓国の家族と教育—
- 第3回 2018年12月21日(金) 18時30分～20時  
 講演者 : 金 淵明 氏 (韓国・中央大学教授)  
 講演題目 : 文在寅政府「包容国家」ビジョンと戦略 国民の暮らしを変える包容と革新の社会政策
- 第4回 2019年1月31日(木) 18時30分～20時  
 講演者 : 喜多 恵美子 氏 (大谷大学教授)  
 講演題目 : 南北分断と朝鮮民主主義人民共和国の美術
- 第5回 2019年2月14日(木) 18時30分～20時  
 講演者 : 糟谷 憲一 氏 (一橋大学名誉教授)  
 講演題目 : 閔氏政権の成立とその歴史的背景

#### 2019年度

- 第1回 2019年7月25日(木) 18時30分～20時  
 講演者 : 文 聖姫 氏 (『週刊金曜日』副編集長)  
 講演題目 : 15回の訪朝から見えてきた人々の暮らし 北朝鮮を経済から読み解く
- 第2回 2019年12月12日(木) 18時30分～20時  
 講演者 : 伊藤 英人 氏 (専修大学特任教授)  
 講演題目 : 「高句麗地名」中の倭語と韓語—濊倭同系説の可能性—
- 第3回 2020年2月18日(火) 18時30分～20時  
 講演者 : 李 暁源 氏 (東京大学特任准教授)  
 講演題目 : 華夷と礼楽—18世紀東アジアの衣冠談論と文明意識
- 第4回 2020年3月6日(金) 18時30分～20時  
 講演者 : 野辺 陽子 氏 (大妻女子大学准教授)  
 講演題目 : 非血縁親子の動態から読み解く、韓国の<血縁>の現在  
 ※第4回講演は、新型コロナウイルス感染症流行の影響で会場が確保できず、中止となった。

### (3) 常呂公開講座

東京大学文学部では、附属北海文化研究常呂実習施設の所在する北海道北見市(旧・常呂町)において2000年より公開講座を開催している。現在まで通算では24回になるが、地元自治体と共催での公開講座としては23回開催している。講師は基本的に文学部の教員であるが、一部他研究科の教員にも参加していただき、幅広い話題提供を心がけている。最近では、従来の一般向け以外に、常呂高校に於いて高校生を対象とした講演もおこなっている。(講師所属は講座開催時のもの)

- ◆第22回 東京大学文学部公開講座  
 (常呂高校特別講座)  
 2018年10月5日(金) 13:30 - 14:40 北海道常呂高校(共催)  
 「絵の読み方 ～図像学入門」  
 秋山 聡(東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)
- (常呂公開講座)  
 2018年10月5日(金) 18:30 - 21:15 常呂町公民館  
 「北の岬から非人間主義について考える」  
 鈴木 泉(東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)  
 「戦争死者と向き合う生者たち」  
 西村 明(東京大学 大学院人文社会系研究科 准教授)
- ◆第23回 東京大学文学部公開講座  
 (常呂高校特別講座)  
 2019年10月4日(金) 13:30 - 14:40 北海道常呂高校(共催)  
 「古典の魅力 一国と時代をこえて」  
 小島 毅(東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)



〈常呂公開講座〉

2019年10月4日（金） 18:30 - 21:30 常呂町公民館

「認知機能と脳のネットワーク」

今水 寛（東京大学 大学院人文社会系研究科 教授）

「古典ギリシア美術とは何か」

芳賀 京子（東京大学 大学院人文社会系研究科 准教授）

#### (4) 文学部公開講座

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部では、これまで北海道北見市で行ってきた「ところ公開講座」を、より多くの方に参加いただけるよう2011年度から本郷キャンパスにおいても「文学部公開講座」として開催することとした。これは、大学院人文社会系研究科・文学部において行われている教育及び研究の成果を積極的に公開していくとともに、社会連携をより一層深めることを目的としている。

◆第9回東京大学文学部公開講座 2018年6月16日（土） 14時-15時30分

「天皇と天皇制を考える～近代史の視点から～」

講 師 : 野島 (加藤) 陽子 (日本史学)

参加者数 : 約330名

◆第10回東京大学文学部公開講座 2019年6月15日（土） 14時-15時30分

「スピノザライブニッツ問題」

講 師 : 鈴木 泉 (哲学)

参加者数 : 約165名

